

令和3年度 教育改善報告書

— 効果的かつ効率的な教育活動を目指した点検評価 —

令和4年 5月

長野工業高等専門学校
教育改善委員会

令和3年度教育改善報告書 目次

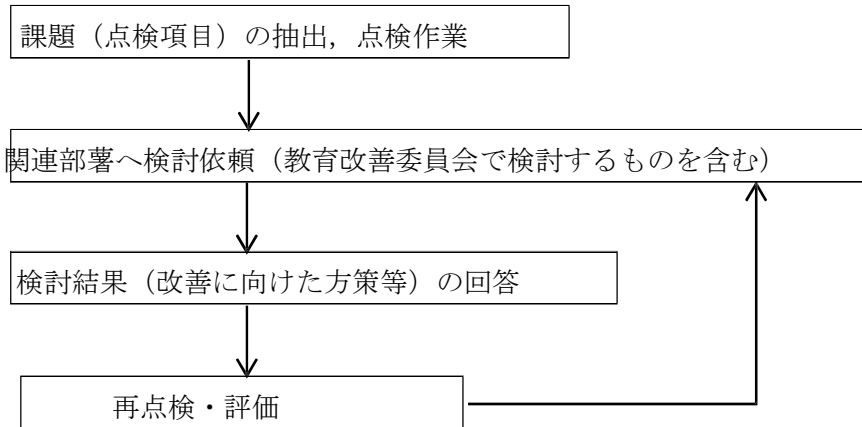
1. 令和3年度教育改善委員会の活動方針	1
1-1 目標	
1-2 点検業務の流れ	
1-3 課題の分類、改善提案	
1-4 今年度の主な活動内容	
2. 令和3年度 各種委員会の活動状況の点検結果	5
2-1 教務委員会	
2-2 学生支援委員会	
2-3 寮務委員会	
2-4 専攻科運営委員会	
2-5 研究支援委員会	
2-6 広報企画室	
2-7 グローバル教育推進センター	
2-8 教育改善委員会	
2-9 男女共同参画推進室	
2-10 教育支援センター	
2-11 図書館	
3. 令和3年度における各種点検報告	65
3-1 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検	
3-2 令和3年度参与会で出された改善点の整理	
3-3 実施済研修会の効果の点検およびその改善	
4. 令和3年度 FD 研修会実施報告	73
4-1 令和3年 第1回 FD 研修会 (8月26日) 「男女共同参画推進について考えましょう」	
4-2 令和3年 第2回 FD 研修会 第1部「モデル授業, 授業アンケート分析」 (9月7日) 第2部「グループワーク」 (10月19日)	
4-3 令和3年 第3回 FD 研修会 (12月17日) 「これからの長野高専に期待すること」	
4-4 令和3年 第4回 FD 研修会 (3月25日) 「長野高専の産学連携」	
5. 令和4年度の活動に向けた各種委員会等への提言	84
付録	
付録1 学修単位における自学自習時間の確保に関する調査結果	87
付録2 令和3年度専攻科学習・教育目標の達成度評価の確認報告	90
付録3 学習・教育目標の達成度自己評価調査票の集計結果	92
付録4 令和3年度学生の満足度に関するアンケート調査実施結果	96
付録5 第18回長野工業高等専門学校参与会議事概要	103
付録6 令和3年度教育改善委員会議事概要	111

1. 令和3年度 教育改善委員会の活動内容

1-1. 目的

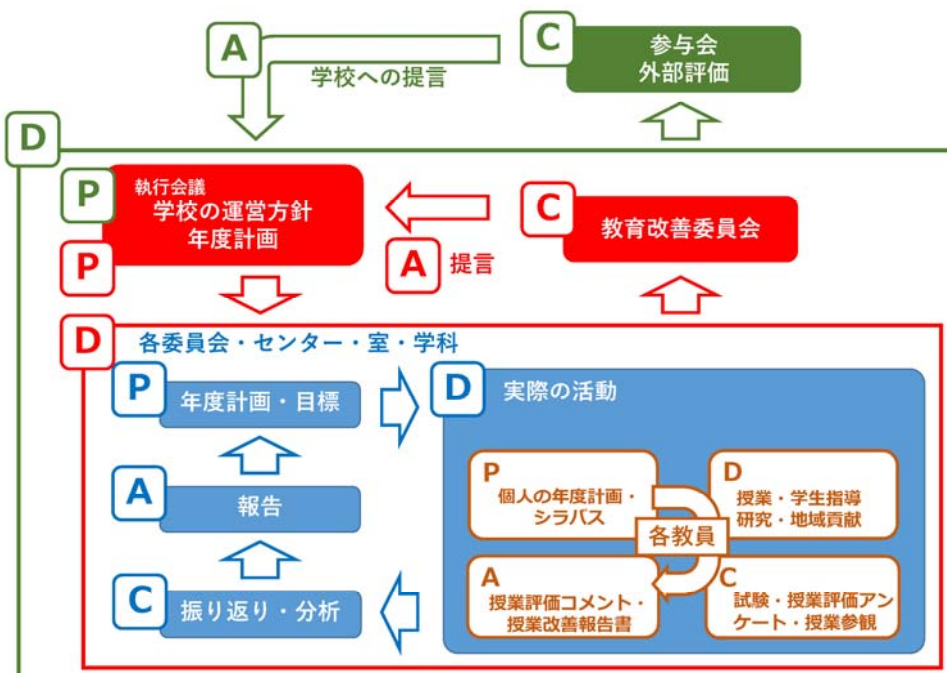
本校の教育システムを点検評価し、教育技術を向上させるための取り組み（FD）を推進し、本校の教育改善に努める。特に PDCA サイクルの A（Action）を重視し、教育改善として次のサイクルにつながる活動を推進する。

1-2. 点検業務の流れ（Check）



1-3. 課題の分類，改善提案（Action）→（Next Plan）

- (1) 各種委員会等の活動状況を点検した後に整理された課題
- (2) FD 研修会での結果を分析した後に整理された課題
- (3) 重点項目として教育改善委員会で取り上げた課題
- (4) アンケート調査の分析から得られた課題
- (5) 外部評価で指摘された課題
- (6) 教員，学生，保護者等から指摘された課題



1-4. 今年度の主な活動内容

- (1) 2021 年度各種委員会の活動状況の点検
 - 【各種委員会は、教務、専攻科運営、研究支援、学生支援、寮務、広報企画、国際交流センター、教育改善、教育支援センター、図書館の 10 委員会とする。】
 - ・ 2020 年度教育改善委員会より提言した課題の検討・改善状況を点検する。
(令和 2 年度教育改善報告書を参照)
 - ・ 2021 年度当初に提示された計画に基づいて行った活動内容を点検する。
 - ・ 2022 年度の活動に向けた課題を整理し提言する。
- (2) 授業改善システムの実施と評価・点検
 - ・ 授業改善用チェック・提言シートに基づいて実施する。
 - ・ 当システムの評価・点検を行う。
- (3) 学習・教育目標の達成度（本科 5 年）に関する調査の点検および自己評価シート（学年別 学習・教育目標の達成度）に関する改善方法の点検
 - ・ 平成 26 年度本科 1 年～5 年生は新システムを導入したが活用方法が明確でなかったため、平成 30 年度から教育システムの改善につなげることを目的として、新たな自己評価シートを作成した。
- (4) 学生との意見交換会に関する点検
 - ・ 2020 年度開催の意見交換会について点検および評価を行う。
- (5) 2020 年度参与会で出された意見に基づいた改善点の整理
 - ・ 2020 年度の参与会（2 月開催）の点検と提言
- (6) 卒業生・企業向けアンケート調査結果からの改善点を検討・評価し各部署へ改善点を依頼
教育改善に向けた作業計画（申し合わせ事項）【（ ）は前回の年度】
 - 1 年目（令和 2（H27）年度）：改善内容の検討と各部署への依頼
 - 2 年目（令和 3（H28）年度）：改善内容の実施**
 - 3 年目（令和 4（H29）年度）：
 - 4 年目（令和 5（H30）年度）：改善内容を含めた教育システムの評価
 - 5 年目（令和 6（R1）年度）：卒業生・企業向けアンケート調査の実施
 - 6 年目（令和 7（R2）年度）：改善内容の検討と各部署への依頼
- (7) 実施済 FD 研修会の効果の点検およびその改善
 - ・ アンケートをタイムリーに実施し、FD 研修会の効果を確認する。
- (8) FD 研修会の企画・開催および報告書の作成
 - 第 1 回 FD：8/26 実施（遠隔，MS Teams）
 - 第 2 回 FD：9/7, 10/19 実施（対面＋遠隔，MS Teams）
 - 第 3 回 FD：12/17 実施（遠隔，MS Teams）
 - 第 4 回 FD：3/25 実施（対面＋遠隔，MS Teams）
- (9) エビデンス収集・保管と方法の検討
 - ・ COVID-19 の影響で実施された遠隔授業等を考慮して、柔軟に対応する。
 - ・ 教育改善委員会ワーキンググループ（チーフ：長坂委員）が担当する。
- (10) 試験問題レベルの保証確認 → 結果は学生課で保管
 - ・ 年 2 回実施（前期 10 月，後期 3 月）
 - ・ 各学科の保証確認作業は各学科の教育改善委員会委員が行う。
- (11) 各部署への検討依頼，回答の集約
- (12) メール目安箱への対応

(13) 2021 年度版教育改善報告書の編集・発行

(14) COVID-19 の影響の検証を行う。

教育改善委員会開催

- 第1回 5/26 : 方針, 業務分担, エビデンス収集
教育システムの評価
- 第2回 7/28 : 2020 年度計画への評価・提言
委員会重点項目の確認, 実施済研修会の点検
教員チュータ制の検討
授業改善システム (2021 年) の点検
- 第3回 9/30 : 達成度評価レベル確認
授業改善システムの実施報告
学習・教育目標の達成度に関する調査の点検と改善
エビデンスの収集方法・有効活用の検討
- 第4回 11/24 : エビデンスチェックの検討, 各種点検の報告
- 第5回 1/21 : 教育改善報告書作成依頼, 各種点検の報告
- 第6回 3/25 : 教育改善報告書のまとめ
(委員会の活動状況点検, 学生との意見交換会を含む),
試験問題レベル保証の確認 (後期分)

その他 電子メール : FD 研修会の実施について
: 試験問題レベルの保証 (作業依頼)

令和3年度教育改善委員会業務分担

	担当項目	楡井	鈴木(伸)	長坂	秋山	浅野	久保田	小宮山	事務	備考
(1)	2021年度各種委員会の活動状況の点検	◎教育改善	グローバル・広報	寮	研究支援	学生支援・図書	教務・教育支援	専攻科	○	3月上旬
(2)	授業改善システムの実施と評価・点検 (作業含む)	◎ (情報)	○ (制御)	○ (機械)	○ (電気)	○ (環境)	○ (一般)	○ (一般)		7月依頼 9月上旬
(3)	学習・教育目標の達成度に関する調査の点検 自己評価シートに関する改善方法の点検	○	○			◎				9月上旬
(4)	学生との意見交換会の点検	○					◎	○		3月上旬
(5)	2020年度参与会で出された改善点の整理	○		◎						7月下旬
(6)	卒業生・企業向けアンケート調査結果から 改善内容を含めた教育システムの評価	○	◎							9月上旬
(7)	実施した研修会の効果の点検と改善	○			◎					7月下旬
(8)	FD研修会の企画・実施	○	第1回 企画・報告	第2回 企画・報告	第3回 企画・報告	第1回 企画・報告	第2回 企画・報告	第3回 企画・報告	○	
(9)	エビデンス収集・保管の改善 (実務作業含む)	○		◎						WGで担当
(10)	試験問題レベルの保証確認	○ (情報)	○ (制御)	○ (機械)	○ (電気)	○ (環境)	○ (一般)	○ (一般)	◎	前期11月 後期3月
(11)	各部署への検討依頼，回答の集約	◎							○	随時
(12)	メール目安箱への対応	◎	○	○	○	○	○	○	○	随時
(13)	教育改善報告書の編集・発行 (PDF形式)	○	◎						○	3月下旬
(14)	COVID-19の影響の検証	○	◎	○	○	○	○	○	○	2~3月

2. 令和3年度 各種委員会の活動状況の点検結果

各委員会の重点項目の点検システム

教育改善委員会

1. 概要

各委員会は、重点項目を定め、それに対する活動等計画を立てて、委員会活動を行っている。その活動が実際に適切に行われているか教育改善委員会が点検し、改善点等を提言している。その PDCA サイクルを示す。

2. 各委員会の重点項目の点検システム

2-1 各委員会の重点項目と活動等計画の策定 (Plan) 【資料1】、【資料2】

各委員会は、年度当初にその年度に行う重点項目とその活動等計画を資料1および2のように定め、教員会議や科会で説明を行う。

2-2 各委員会の活動 (Do)

各委員会は、活動等計画に基づき実際の活動を実施する。

2-3 各委員会の評価・分析 (Check)

各委員会は、委員会独自の視点から、自己分析を行う。

2-4 各委員会の改善 (Act) 【資料3】

各委員会は、年度末にその年の重点項目に対する取組結果報告を行い、次年度への改善点等を示す。

2-5 各委員会の点検 (Check) と提言 (Act) 【資料4】

教育改善委員会は、資料4に示す形で、各委員会の点検を行い次年度への提言を行う。

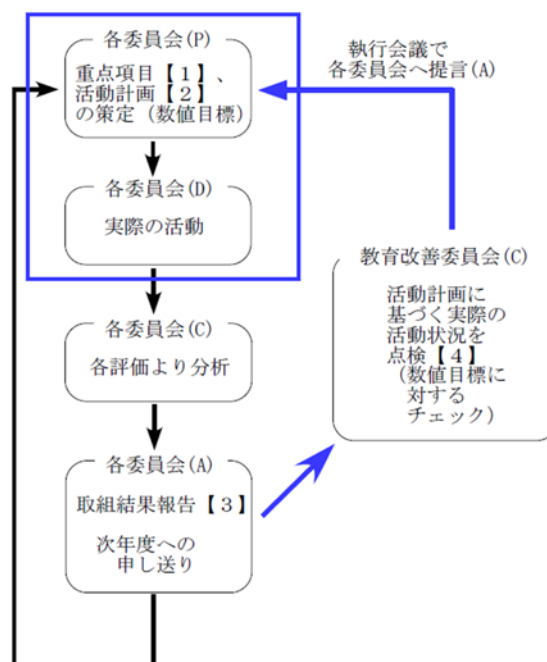


図1 各委員会の点検システム（赤枠部分） 【 】は資料番号

令和3年度の各委員会の重点項目

委員会	担当	重点項目	機関別 認証評価 項目との 対応
教務委員会	教務主事	1. 学力の向上と質保証 2. 新型コロナウイルス対策 3. 教員間の連携と協働教育の推進 4. 学科再編	
学生支援委員会	学生主事	1. 問題行動の未然防止 2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築 3. 進路支援体制の充実	
寮務委員会	寮務主事	1. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り 2. 指導・表彰などの体制作り 3. システムの構築・見直し、および施設面の充実	
専攻科運営委員会	専攻科長	1. 入学者数の確保 2. 学士の取得支援 3. 教員の研究業績積上げ・特別研究担当教員の増加 4. 教育DXへの対応 5. キャリア形成支援	
研究支援委員会	研究主事	1. 外部資金獲得支援 2. 特許出願および知財的側面からの研究支援 3. 知財の取扱い方法の整備 4. 各種連携事業等の推進	
広報企画室	総務主事	1. 小中学生へのPR 2. 地域、地域企業へのPR 3. 学生、保護者、卒業生への情報発信	
グローバル教育推進センター	センター長	1. 国際交流センター コロナ禍での国際交流の持続と促進 2. グローバルエンジニア育成センター 授業への英語導入による学生のグローバル意識の育成 3. タイ協働センター プレミアムコース自立化に向けた支援	

教育改善委員会	委員長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各種委員会の活動状況の点検 2. 授業改善システムの実施と評価・点検 3. FD 研修会の企画・開催と評価 4. エビデンス収集・保管 	
男女共同参画推進室	室長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進 2. 男女共同参画の意識啓発 3. 女性教職員に対する労働環境支援 	
教育支援センター	教務主事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学力向上への教育支援 2. コロナウィルス対応 3. 教員間の連携と協働教育の推進 4. 安全性の向上 	
図書館	図書館長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館利用の促進 2. 図書館購読雑誌について検討 3. 電子ジャーナル・データベースの利用促進 	

2-1. 令和3年度 教務委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
教務委員会	教務主事	1. 学力の向上と質保証 2. コロナウィルス対応 3. 教員間の連携と協働教育の推進 4. 学科再編

1. 学力の向上と質保証

- ・「主体的・対話的で深い学び」を推進するための施策検討
ポートフォリオ活用の検討（下記※）とあわせて実施
- ・校内学習塾を活用した低学力学生のフォロー
【計画】 校内学習塾の企画と実施
- ・授業公開や授業アンケート，FD 研修会などの活性化
【計画】 授業公開期間における授業参観への呼びかけ
【計画】 教育力向上のためのFD研修会の実施
- ・ポートフォリオ活用の検討（※）
【計画】 主体性を持つための方策として，委員会で担当者を決定し，検討を開

始

機構本部による質保証重点6項目の1つとして他高専との勉強会に参加

- ・分野横断能力育成プログラムの整備
分野横断能力に関する評価方法を検討

2. 新型コロナウイルス対策

- ・学事暦の弾力的な運用や改訂
ワクチンの職域接種に伴う休講日設定および曜日調整による授業日の確保
学年末達成度試験のリモート対応に伴う試験日程および会議日程の変更
- ・対面授業での感染予防対策
体調不良による欠席者のGWを利用した情報共有
授業での手指消毒，一定の距離を保つことを依頼
授業途中での換気タイムの設定
- ・リモート授業の準備と対応（3M，3S 未着留学生対応）
リモート授業の実施体制の整備
教室への天吊りカメラ，PC，マイクの常備

3. 教員間の連携と協働教育の推進

- ・学科間，科目間の連携を強化

低学年の成績に関する情報共有会議の実施

低学年の情報を GW で共有

- Microsoft 365 の利用促進
 - 新入生への Teams の設定完了時期の前倒し
 - リモート授業での活用
 - 教育 DX に向けた検討
- モデルコアカリキュラムへ対応, Web シラバスの整備
 - Web シラバス記入依頼と確認作業の実施
 - MCC との対応確認
- 他教育機関との連携の推進 (技科大や近隣大学)
 - 高専間単位互換の第 2 ブロック内での試行に向けた準備
- 本科と専攻科の連携を強化した教育体制の構築
 - 学事暦の一本化
 - 始業式, 終業式への専攻科生の参加

4. 学科再編

- 学科再編に伴う準備
 - Zukudase ゼミ, ものづくり基礎工学・実験の内容検討
 - 一日体験入学, 秋のオープンキャンパスでの中学生と保護者への説明会実施

令和3年度 教務委員会の重点項目への取組結果報告

委 員 会	担当	重 点 項 目
教務委員会	教務主事	1. 学力の向上と質保証 2. コロナウィルス対応 3. 教員間の連携と協働教育の推進 4. 学科再編

1. 学力の向上と質保証

- ・「主体的・対話的で深い学び」を推進するための施策検討
ポートフォリオ活用の検討（下記※）とあわせて実施
- ・校内学習塾を活用した低学力学生のフォロー
校内学習塾の企画と実施
- ・授業公開や授業アンケート，FD 研修会などの活性化
授業公開期間における授業参観への呼びかけ
教育力向上のためのFD研修会の実施
- ・ポートフォリオ活用の検討（※）
主体性を持つための方策として，委員会で担当者を決定し，検討を開始
機構本部による質保証重点6項目の1つとして他高専との勉強会に参加
- ・分野横断能力育成プログラムの整備
分野横断能力に関する評価方法を検討

2. 新型コロナウイルス対策

- ・学事暦の弾力的な運用や改訂
ワクチンの職域接種に伴う休講日設定および曜日調整による授業日の確保
学年末達成度試験のリモート対応に伴う試験日程および会議日程の変更
- ・対面授業での感染予防対策
体調不良による欠席者のGWを利用した情報共有
授業での手指消毒，一定の距離を保つことを依頼
授業途中での換気タイムの設定
- ・リモート授業の準備と対応（3M，3S 未着留学生対応）
リモート授業の実施体制の整備
教室への天吊りカメラ，PC，マイクの常備

3. 教員間の連携と協働教育の推進

- ・学科間，科目間の連携を強化
低学年の成績に関する情報共有会議の実施

低学年の情報を GW で共有

- Microsoft 365 の利用促進
 - 新入生への Teams の設定完了時期の前倒し
 - リモート授業での活用
 - 教育 DX に向けた検討
- モデルコアカリキュラムへ対応, Web シラバスの整備
 - Web シラバス記入依頼と確認作業の実施
 - MCC との対応確認
- 他教育機関との連携の推進 (技科大や近隣大学)
 - 高専間単位互換の第 2 ブロック内での試行に向けた準備
- 本科と専攻科の連携を強化した教育体制の構築
 - 学事暦の一本化
 - 始業式, 終業式への専攻科生の参加

4. 学科再編

- 学科再編に伴う準備
 - Zukudase ゼミ, ものづくり基礎工学・実験の内容検討
 - 一日体験入学, 秋のオープンキャンパスでの中学生と保護者への説明会実施

令和3年度 教務委員会の重点項目への取組結果の点検

教務委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 学力の向上と質保証	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」を推進するための施策検討 ポートフォリオ活用の検討（下記※）とあわせて実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・e ポートフォリオ活用の検討は、第10回教務委員会資料No.13によって実施が確認できる。e ポートフォリオ実施に向けて計画中とのこと。
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内学習塾を活用した低学力学生のフォロー 校内学習塾の企画と実施 	○	<p>前期については、第7回委員会資料No.3、成績の向上が見られた。</p> <p>後期については、「教務委員会まとめ」の当該項目によって実施の過程が確認できる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開や授業アンケート、FD研修会などの活性化 ・授業公開期間における授業参観への呼びかけ ・教育力向上のためのFD研修会の実施 	◎ ◎	<p>第10回委員会 資料No.1 授業公開のまとめにより、昨年度より参加件数が増加したことがわかる。</p> <p>第7回委員会 資料No.10 教育力向上FD研修が、計画通り実施されたことが分かる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ活用の検討（※） <p>主体性を持つための方策として、委員会で担当者を決定し、検討を開始</p> <p>機構本部による質保証重点6項目の1つとして他高専との勉強会に参加</p>	○	<p>第10回委員会資料No.13 「eポートフォリオの実施が検討」されたことが分かる。</p> <p>機構本部による質保証6項目について、教員集団への周知が不足している。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・分野横断能力育成プログラムの整備 ・分野横断能力に関する評価方法を検討 	◎	第9回委員会資料 No.12 は「分野別横断能力セルフチェック」である。検討は行われ、次年度実施の運びとなった。
2. コロナウイルス対応	<ul style="list-style-type: none"> ・学事暦の弾力的な運用や改訂 1 ワクチンの職域接種に伴う休講日設定および曜日調整による授業日の確保 2 学年末達成度試験のリモート対応に伴う試験日程および会議日程の変更 	○	<p>1、第7回運営会議資料 No.12 より実施は確認された。</p> <p>2 は教務委員会の議事録からは検討が確認されなかった。・・リスク管理室会議での決定か？</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業での感染予防対策 1 体調不良による欠席者の GW を利用した情報共有 2 授業での手指消毒, 一定の距離を保つことを依頼 3 授業途中での換気タイムの設定 	◎	<p>1 第1回委員会資料 No.6</p> <p>2 第1回委員会資料 No.6</p> <p>3 第1回委員会資料 No.6</p> <p>以上により確認。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・リモート授業の準備と対応 (3M, 3S 未着留学生対応) リモート授業の実施体制の整備 教室への天吊りカメラ, PC, マイクの常備 	◎	第2回委員会議事概要によって教室の天吊りカメラとそれに用いるパソコンが設置されたことが分かる。

3. 教員間の連携と協働教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科間, 科目間の連携を強化 低学年の成績に関する情報共有会議の実施 低学年の情報を GW で共有	△	7 月第 2 週に低学年の情報共有会議の施が計画された (第 4 回委員会議事概要) →実施は未確認。 12 月に 1 年生 2 年生の情報共有の会議が実施された (第 10 回委員会議事概要) 「学年の情報を GW で共有」については委員会の議事録等で計画が確認できず。実施されたことは確認できた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ Microsoft 365 の利用促進 1 新入生への Teams の設定完了時期の前倒し 2 リモート授業での活用 3 教育 DX に向けた検討	△ △ ○	1 についての資料は見付からず 2 活用は行われていたが、教務委員会の計画によるものか不明 3、各種申請の電子化を検討することが、第 2 回委員会議事概要には示されている。実際にどの程度行われたかは不明。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ モデルコアカリキュラムへ対応、web シラバスの整備 1、Web シラバス記入依頼と確認作業の実施 2、MCC との対応確認	◎	1、第 10 回委員会資料 No.5 2022 年度シラバス作成の予定によって確認。 2、MCC との対応確認は、3 月末までに行われるとのこと。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他教育機関との連携の推進・技大や近隣大学 高専間単位互換の第 2 ブロック内での試行に向けた準備	◎	第 12 回教務委員会 資料 No.3 高専間単位互換の推進
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本科と専攻科の連携を強化した教育体制の構築 1 学事暦の一本化 2 始業式, 終業式への専攻科生の参加	○	1、第 12 回教務委員会資料 No.5 による確認した。 2 リモートで行われているので、確認できない。
4. 学科再編	・ 学科再編に伴う準備	△	1 「ものづくり基礎工学・実

との連携	1 Zukudase ゼミ, ものづくり 基礎工学・実験の内容検討 2 一日体験入学, 秋のオープン キャンパスでの中学生と保 護者への説明会実施	○	験の内容検討については」 第11回委員会資料No.6によ り確認した。Zukudase ゼミ の内容検討は確認できず。 2 保護者向けの説明会の実施 については、確認できる が、内容までは分らない。
------	---	---	---

(2) 次年度への提言

- ・機構本部による質保証6項目について、教員集団への周知が不足しているので、FD研修会として設定することを提案する。。
- ・DXについての検討により各種申請の電子化が検討されたということであるが、コロナ禍のなかで在宅からの申請ができるようになることが期待される。(一部実施済み)
- ・本科と専攻科の学事暦の一本化については、その必要性も含めて再検討すべきでは無いか。
- ・校内学習塾は成績が振るわないものにとっては、必要なことなので積極的に進めてほしい。
- ・教育に関する実践的なFD研修会が実施され、一定の効果があったと思われる。次年度もブラッシュアップした形で推進してほしい。
- ・授業公開への教員の参加者が、相変わらず多くは無かったので、活性化をはかるために何らかの手段が必要である。後期の授業公開は、上記のFD研修会とリンクさせての授業公開となったが、それでも教員参加者増加につながらなかった。

2-2. 令和3年度学生支援委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
学生支援委員会	学生主事	1. 問題行動の未然防止 2. 学生会活動の支援、 地域住民との信頼関係の構築 3. 進路支援体制の充実

1. 問題行動の未然防止

- ・交通事故防止に向けた取り組み
- ・寮務委員会と連携した学生対応
- ・各種講習会を通じた問題行動防止への意識付け
- ・学生会と連携した問題行動防止への意識付け
- ・教員の連携による的確な学生の捉え、学生指導の徹底

2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築

- ・学生会活動の支援
- ・部長会活動の支援
- ・課外活動の支援
- ・工嶺祭の支援
- ・ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築
- ・交通マナー向上による地域住民との信頼関係の構築
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応

3. 進路支援体制の充実

- ・各種講習会等を通じた進路支援
- ・低年次からのキャリア形成への取組
- ・キャリアコーディネーターと連携した進路指導
- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応

令和3年度 学生支援委員会の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
学生支援委員会	学生主事	1. 問題行動の未然防止 2. 学生会活動の支援、 地域住民との信頼関係の構築 3. 進路支援体制の充実

1. 問題行動の未然防止

・交通事故防止に向けた取り組み

全学年を対象に交通安全講習会を開催した。2月末のサンロードの隧道の開通に合わせて全学生にメールで注意喚起を行い、登校初日には立ち番指導を実施した。例年行う2回の交通指導に加え、危険と思われる事案が報告された際にも随時指導を行った。高専西側の丁字路に交通安全を促す看板を設置した。

・寮務委員会と連携した学生対応

寮生の指導に関しては寮務委員会からの処分との重複やバランスを考慮した対応を行った。

・各種講習会を通じた問題行動防止への意識付け

全学年に対して交通安全講習会とSNS講習会を開催した。2年生に対して消費者被害未然防止講習会を開催した。3年生に対して生と性の講習会を開催した。

・学生会と連携した問題行動防止への意識付け

長野高専学生会・市立長野生徒会合同「あいさつ・交通安全」企画

①7月12日から16日まで②12月13日から17日まで、挨拶運動及び交通安全の声掛け、ゴミ拾いを実施した。

・教員の連携による的確な学生の捉え、学生指導の徹底

学生に対する際には常に担任と情報を共有し、必要と感じた際には学生相談室とも連携をした。また学校いじめ対策委員会との連携もできた。

2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築

・学生会活動の支援

今年度は活動が制限された中で、学生総会、新入生歓迎会、クラスマッチ、5年生を送る会、翠嶺の発行などを行った。例年とは違う形の活動も多かったが、オンラインをうまく活用しながら準備や運営を行うことができた。

新型コロナウイルス対策を学生の視点で考え、学生主体で対策をしていくことを目的としたプロジェクトが立ち上がり、その支援を行った。活動内容は以下の通り。

6月14日～6月18日 朝の消毒活動（抽選会を同時実施）

※朝の消毒実施率が 31.2%→93.4%に向上

8月5日 夏季休業前に感染対策の意識を高めるためのクイズを実施

※ホームルーム等で実施呼びかけ

10月12日～1月15日 動画等をみてコロナウイルスに関する理解を深めるクイズを実施。2年生が保健体育の授業で制作した動画を使用

2月10日「5年生を送る会」にてコロナウイルス感染対策クイズを実施

・部長会活動の支援

部長会費の配分が主な活動であった。申請書類を確認し、問題ない団体に支出分の配分を行った。

・課外活動の支援

活動に多くの制限がかかった。活動前には各団体で感染症対策を考え、活動前には確認し、徹底してもらった。活動制限時には、各団体から参加希望の対外試合を聞き取り、上位大会の有無や感染対策、主催団体等を一覧にした。

休日活動が可能な時には、全員の体温を確認したり、参加者一覧を作成したりして、万が一に備えてから活動を行った。

昨年度から継続審査を繰り返している団体の審査を行った。

・工嶺祭の支援

前年度同様に、一般公開有・無の両面の可能性を考慮しつつ企画・準備を進めた。一般公開は中止したものの、「分散登校によるクラス・団体展示等の見学」と「ステージ企画のオンライン配信」のハイブリッド型の形式をとって実施した。多くの制限のある中で、学生らがアイデアを出し合い、切磋琢磨しながら取り組むことで、初のハイブリッド型工嶺祭を成功させることができた（別添資料あり）。

・ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築

長野マラソン中止等、多くのイベントが中止になり、これまで実施してきたボランティア活動は実施することができなかったが、4月に「長野市放課後子どもプラン」の説明会を行い、27名が登録した。

・交通マナー向上による地域住民との信頼関係の構築

長野高専学生会・市立長野生徒会合同「あいさつ・交通安全」企画

①7月12日から16日まで②12月13日から17日まで、挨拶運動及び交通安全の声掛け、ゴミ拾いを実施した。

・新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応

学生会活動（学生総会、工嶺祭等）や課外活動が新型コロナウイルス感染拡大に伴い、制限されることとなった。活動実施時における感染状況に基づいて可能な範囲内で実施した。課外活動については、リスク管理室にて策定された活動基準に基づいて活動制限を行った。学生有志による新型コロナウイルス対策学生プロジェクトが立ち上がり、新型コロナウイルスに対する理解や感染対策に関する意識を高める活動を支援した。

3. 進路支援体制の充実

- ・各種講習会等を通じた進路支援

進路ガイダンス（1回）、進学講演会（1回）、進路セミナー（進路選択編、進学編、就職編）（3回）、卒業生講演会（5回）、進路説明会（1回）の計11回の講演会を校内で実施した。また、校外でも7回程度のイベントを紹介し、自ら進路に対して検討できる機会を提供した。

本科4年生、専攻科1年生向けに「進路選択ガイド」を発行し、これまで別様式で周知していた校内手続きに関する様式等を集約した内容に改善を行った。併せて、学校推薦ほか従来の内規等を見直し改正を行うと共に、次年度以降は進路支援室を新設し、さらに体制を効率化させ支援を充実させることとした。

- ・低年次からのキャリア形成への取組

- ①企業コラボによるキャリア形成

地元企業と学生のクラス展のコラボレーションが初めて行われた。低学年では、初めて企業とのコミュニケーションを取る事となるため、企業情報を得るだけでなく、マナーについても学ぶ機会となった。企業コラボでマッチング数は8組であり、その内1-3年次を対象としたものは、4件であった。

- ②長野高専進路セミナー（進路選択編） ※3年次を対象

1月24日（月）に3年次を対象とした長野高専進路セミナーが行われた。これまで進路セミナーは4年次から行われていたため、低年次を対象とした新しい取り組みとなり、3年次の学生にこれからの進路選択スケジュールを意識付けする良い機会となった。

- ・キャリアコーディネーターと連携した進路指導

- ①1月8日（土）にキャリアコーディネーターによる講演会（進路セミナー（進学編・就職編））を実施し、それを契機にして、希望者がキャリアコーディネーターとの面談を行い、進路の相談、面接の練習などの指導を学生が受けた。

- ②3年次の学生にも進路セミナーを実施することで、キャリアコーディネーターの存在を認識してもらい、幅広い学年に対して進路指導できる環境を作った。

- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応

- ①基本的に、遠隔および分散で対応を行った。進路セミナー（進学・就職編）は2会場用意するだけでなく、各自のPCからリモート参加へも対応した。進路セミナー（進路選択編）もリモート講演とし、学生は、各自のHR教室（5つの教室）で聴講できるよう対応した。卒業生講演会もリモート講演とし、学生は各自のHR教室から聴講できるように対応した。（※参加企業数は15社で各20分の講演時間、5日間（12/6、7、9、10、13）に分けて実施）

- ②キャリアコーディネーターによる進路相談を、オンライン予約登録及び遠隔（オンライン面談）でも相談できるように工夫した。（※Google Meet を利用）

③ 4年生対象の進路説明会もガイダンス動画作成やリモート面談などオンラインで実施した。

令和3年度 学生支援委員会の重点項目への取組結果の点検

学生支援委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 問題行動の未然防止	交通事故防止に向けた取り組み	◎	第1回会議-議題15, 第3回会議-報告2等で審議確認. ・各学年へ交通安全指導映像による交通指導実施 ・近隣の丁字路へ交通安全を促す看板設置 ・交通安全を促すメールの配信
	寮務委員会と連携した学生対応	○	第9回会議-報告2等で審議確認 ・通学生の寮立ち入りに関する指導の実施
	各種講習会を通じた問題行動防止への意識付け	◎	第8回会議-報告2等で審議確認 ・薬物乱用防止講習会(1年生) ・生と性の講習会(3年生) ・交通安全とSNS講習会の映像実施
	学生会と連携した問題行動防止への意識付け	○	第10回会議-報告3等で審議確認 [第2回学生総会議案]
	教員の連携による的確な学生の捉え、学生指導の徹底	○	第11回会議-議案2等で審議確認 ・近隣での自転車の危険運転への担任からの注意喚起協力

2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築	学生会活動の支援	◎	第 10 回会議-報告 3 等で審議確認 ・ 各種学生会活動の指導 ・ 学生から学校への意見への回答
	部長会活動の支援	○	第 10 回会議-報告 3 等で審議確認 ・
	課外活動の支援	◎	第 3 回会議-議題 4 等で審議確認
	工嶺祭の支援	◎	第 3 回会議-報告 6 等で審議確認
	ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築	×	実施実態が確認できず
	交通マナー向上による地域住民との信頼関係の構築	○	第 1 回会議-議題 15, 第 3 回会議-報告 3 等で審議確認
	新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応	◎	第 8 回会議-報告 3 等で審議確認
3. 教員間の連携と協働教育の推進	各種講習会等を通じた進路支援	◎	第 7 回会議-議題 3 等で審議確認
	低年次からのキャリア形成への取組	△	第 7 回会議-議題 3 等へ盛り込まれているが、具体的活動が確認できない
	キャリアコーディネーターと連携した進路指導	◎	第 3 回会議-報告 7 等で審議確認
	新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応	○	第 7 回会議-報告 2 等で審議確認

(2) 次年度への提言

- ・交通マナーの向上に向けた取り組みについて、教員が多くの労力を当てて取り組んだにもかかわらず、近隣住民からの苦情が出ている。近隣住民との信頼構築のためにも、ボランティア学生や学生会役員やクラス風紀委員などと協働した更なる意識づけや呼びかけなど、教員の労力をあまり増やさずに実施する必要がある。

- ・校内でのゲームや麻雀について、麻雀設備の導入要望が出るなど、「原則禁止」の意識づけが低い。校内でのゲーム類の禁止について、徹底した指導が必要である。

- ・コロナ感染拡大の生もあり昨年度からインターンシップ実施が縮小傾向にあったが、低学年生向けのキャリア形成取り組みのためにも、積極的な低学年学生のインターンシップ参加指導が必要である。

2-3. 令和3年度 寮務委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
寮務委員会	寮務主事	1. 自立性・協調性をもった コミュニティ作り 2. 指導・表彰などの体制作り 3. システムの構築・見直し、 および施設面の充実

1. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り
 - ・寮生の寮生活支援のための施策検討
 - ・アンケートによる環境調査

2. 指導・表彰などの体制作り
 - ・指導體制作りの実施
 - ・表彰体制作りの実施
 - ・表彰の案内

3. システムの構築・見直し、および施設面の充実
 - ・システムの構築・見直しの準備
 - ・施設面の充実の準備

令和3年度 寮務委員会の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
寮務委員会	寮務主事	1. 自立性・協調性をもった コミュニティ作り 2. 指導・表彰などの体制作り 3. システムの構築・見直し、 および施設面の充実

1. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り

- ・寮生の寮生活支援のための施策検討
→ コロナウイルス感染拡大防止のため、すべての行事を中止することとなった。
- ・寮生会アンケートによる環境調査
→ 寮生への満足度調査を実施した。現状の課題等を抽出することができた。

2. 指導・表彰などの体制作り

- ・指導体制作りの実施
→ 館長・階長会議を実施した。
→ 寮生会との協議会をほぼ月一回実施した。
- ・表彰体制作りの実施
→ 寮生努力賞および寮生会役員賞を継続的に実施することとした。
- ・表彰の案内
→ 寮生努力賞、寮生会役員賞などを適宜情報提供した。

3. システムの構築・見直しおよび施設面の充実

- ・システムの構築・見直しの準備
→ システムの構築・見直しの準備の要項を作成した。次年度より要項に沿って実施を試みた。
- ・施設面の充実の準備
→ 食堂冷凍庫故障による取り換えと食堂回転釜の不調による取り換えを行ったが、アンケートに準じたものを実施することができなかった。

令和3年度 寮務委員会の重点項目への取組結果の点検

寮務委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り	・寮生の寮生活支援のための施策検討	△	居室の往来やイベントの中止などにより支援をすることが難しかった。 第1回寮務委員会【資料No. 14, 】
	・寮生会アンケートによる環境調査 ・寮生活に関するアンケート調査	◎	アンケートを実施し、課題を抽出できた。 第8回寮務委員会【資料No. 5】
2. 指導・表彰などの体制作り	・指導体制作りの実施	◎	月一回程度の寮生役員との協議会の実施 第2回寮務委員会【資料No. 5-1, 8-1, 8-2】
	・表彰体制作りの実施	○	継続的に実施する体制の確保 第11回寮務委員会【資料No. 4】
	・表彰の案内	◎	適宜案内することができた 第12回寮務委員会【資料No. 2】
3. システムの構築・見直し、および施設面の充実	・システムの構築・見直しの準備	○	違反点の共有方法変更等 第1回寮務委員会【資料No. 7】 第5回寮務委員会【資料No. 3】
	・施設面の充実の準備	○	食堂冷凍庫故障による取り換え 食堂回転釜の不調による

			取り換え 上記の予算配置に伴いブ ラインドの新設を翌年度 とした 根拠資料：予算差し引き 簿
--	--	--	---

(2) 次年度への提言

- ・桜風寮のシステムの構築について，対応が必要と思われる。
- ・桜風寮の施設面の充実の準備，対応が必要と思われる。
- ・入寮許可の年度更新対応の充実が必要と思われる。
- ・違反点の担任および保護者とのさらなる情報共有が必要と思われる。

2-4. 令和3年度 専攻科委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
専攻科運営委員会	専攻科長	1. 入学者数の確保 2. 学士の取得支援 3. 教員の研究業績積上げ・学修総まとめ科目担当教員の増加 4. 教育DXへの対応 5. キャリア形成支援

1. 入学者数の確保

- ・進学説明会等での説明（連携教育プログラムの説明を含む）
- ・専攻科運営委員による各科への呼びかけ

2. 学士の取得支援

- ・学士申請説明会の開催
- ・学修総まとめ科目計画書および成果の要旨の作成支援

3. 教員の研究業績積上げ・特別研究担当教員の増加

- ・教員への研究業績積上げ依頼
- ・個表増加を目的とした教員への働きかけ
- ・准教授以上への昇任教員への個表申請の働きかけ
- ・連携教育プログラムにおける研究マッチング数の増加

4. 教育DXへの対応

- ・学生提出物のデジタル化
- ・欠席学生向けの講義アーカイブの作成

5. キャリア形成支援

- ・実践工学演習の内容充実
- ・就職説明会および大学院進学説明会の充実
- ・キャリアコーディネーターと連携した進路指導

令和3年度 専攻科運営委員会の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
専攻科運営委員会	専攻科長	1. 入学者数の確保 2. 学士の取得支援 3. 教員の研究業績積上げ・学修総まとめ科目担当教員の増加 4. 教育DXへの対応 5. キャリア形成支援

1. 入学者数の確保

- ・進学説明会等での説明（連携教育プログラムの説明を含む）
【具体的な実施内容】 12月15日の進学説明会にて実施
- ・専攻科運営委員による各科への呼びかけ
【具体的な実施内容】 委員を通じた本科学生へのPR

2. 学士の取得支援

- ・学士申請説明会の開催
【具体的な実施内容】 7/21に2年生対象で履修計画書の説明会を開催
- ・学修総まとめ科目計画書および成果の要旨の作成支援
【具体的な実施内容】 12/8に2年生対象に実施

3. 教員の研究業績積上げ・特別研究担当教員の増加

- ・教員への研究業績積上げ依頼
【具体的な実施内容】 委員を通じて審査情報の周知、可能性のある教員への依頼
- ・個表増加を目的とした教員への働きかけ
【具体的な実施内容】 委員を通じて審査情報の周知、可能性のある教員への個表申請依頼
- ・准教授以上への昇任教員への個表申請の働きかけ
【具体的な実施内容】 委員を通じて審査情報の周知、可能性のある教員への個表申請依頼
- ・連携教育プログラムにおける研究マッチング数の増加
【具体的な実施内容】 委員を通じて審査情報の周知、可能性のある教員への依頼

4. 教育DXへの対応

- ・学生提出物のデジタル化
【具体的な実施内容】 Teams等を使い各種報告書、発表会原稿を収集

- ・ 欠席学生向けの講義アーカイブの作成

【具体的な実施内容】 Teams による講義アーカイブの作成、並行授業の実施

参考資料：9/10（金）日本工学教育協会第 69 回年次大会シンポジウム

講演 4 「長野高専におけるオンライン授業とハイブリッド型授業の実施」

動画の中で 1:04:10～1:05:15 に本校専攻科の状況について紹介

<https://confit.atlas.jp/guide/event/jsee2021/session/SY/tables?STONENJ>

du0

5. キャリア形成支援

- ・ 実践工学演習の内容充実

【具体的な実施内容】 6 月 3 日（木）KDDI 株式会社によるオンライン授業「5G・IoT を活用した地方創生の取り組み」を実施

参考資料：<https://www.nagano-nct.ac.jp/topics/2021/06/kddi-1.php>

- ・ 就職説明会および大学院進学説明会の充実

【具体的な実施内容】 大学院進学説明会を以下の内容で実施

2 月 2 日（水）東京工業大学（オンライン）

2 月 3 日（木）大阪大学（オンライン）

- ・ キャリアコーディネーターと連携した進路指導

【具体的な実施内容】 8 月 7 日（土）にキャリアコーディネーターの伊藤克志氏を講師として招き講演会を実施

令和3年度 専攻科運営委員会の重点項目への取組結果の点検

専攻科運営委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 入学者数の確保	・進学説明会等での説明（連携教育プログラムの説明を含む）	○	・第10回 報告 12 12/15 実施の進学説明会で4年生に対しパンフレットを配布してPR
	・専攻科運営委員による各科への呼びかけ	◎	・第1回 報告 4 専攻科 受験希望状況について ・専攻科委員会および各学科へ依頼した
2. 学士の取得支援	・学士申請説明会の開催	◎	・第8回 資料 7/21に2年生対象で履修計画書の説明会を開催した
	・学修総まとめ科目計画書および成果の要旨の作成支援	◎	・第10回 報告 11 12/8 に2年生に対して学修総まとめ科目「成果の要旨」の書き方について説明した
3. 教員の研究業績積上げ・学修総まとめ科目担当教員の増加	・教員への研究業績積上げ依頼	◎	・第2回 議題 3 特例適用認定の変更審査調査について
	・個表増加を目的とした教員への働きかけ	◎	・第2回 議題 3 特例適用認定の変更審査調査について
	・准教授以上への昇任教員への個表申請の働きかけ	○	・第2回 議題 3 特例適用認定の変更審査調査について
	・連携教育プログラムにおける研究マッチング数の増加	○	・第2回 議題 5 連携教育プログラムについて ・第8回 議題 1 連携教育プログラムに対応す

			るための R4 年度時間割編成について
4. 教育 DX への対応	・ 学生提出物のデジタル化	◎	・ 第 13 回 議題 4 令和 3 年度専攻科運営委員会後期活動概要について
	・ 欠席学生向けの講義アーカイブの作成	◎	・ 第 13 回 議題 4 令和 3 年度専攻科運営委員会後期活動概要について
5. キャリア形成支援	・ 実践工学演習の内容充実	◎	・ 第 3 回 議題 4 実践工学演習のスケジュールと報道機関の取材許可について ・ 第 4 回 報告 6 信州大学繊維学部との連携について
	・ 就職説明会および大学院進学説明会の充実	◎	・ 第 10 回 報告 13 大学院進学説明会の実施について ・ 第 11 回 議案 8 大学院説明会の実施について ・ 2/2 および 2/3 に実施
	・ キャリアコーディネーターと連携した進路指導	◎	・ 第 4 回 議題 5 専攻科生向けの進路セミナーの実施について

(2) 次年度への提言

- ・ 年度初めに提示された重点項目 5 つにおいて、すべて精力的に働きかけられていた。入学者数の確保に関しての活動、学生に対して学士取得の支援、キャリア支援、および教育 DX の充実は丁寧に進められていた。また信州大学との連携協議会、および NAGANO スマートコミッション (NASC) 設立など、外部と連携した新たな体制も整いつつある。今後も外部との連携の拡大が見込まれると思われる。

2-5. 令和3年度 研究支援委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
研究支援委員会	研究主事	1. 外部資金獲得支援 2. 特許出願および知財的側面からの研究支援 3. 知財の取扱い方法の整備 4. 各種連携事業等の推進

1. 外部資金獲得支援

- ・ 科学研究費獲得に向けた添削指導等の実施
- ・ 外部資金獲得に向けた RA による個別指導の実施

2. 特許出願および知財的側面からの研究支援

- ・ 特許発掘から特許出願に至るまでの支援の実施
- ・ 知財的な側面からの研究活動支援の推進

3. 知財の取扱い方法の整備

- ・ 特許出願に関する基準の整備
- ・ 審査請求および権利維持にかかる手続き方法の明確化

4. 各種連携事業等の推進

- ・ 長岡技大との連携協定および産学連携フォーラム, コアファシリティ事業の推進
- ・ KDDI との包括連携協定に基づく事業等の展開

令和3年度 研究支援委員会の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
研究支援委員会	研究主事	1. 外部資金獲得支援 2. 特許出願および知財的側面からの研究支援 3. 知財の取扱い方法の整備 4. 各種連携事業等の推進

1. 外部資金獲得支援

- ・ 科学研究費申請に向けた事前調査等を通じて申請促進活動を実施
- ・ 科学研究費獲得に向けた添削指導等を7名の教員に対して実施
- ・ 外部資金獲得に向けてRAによる個別指導の実施

2. 特許出願および知財的側面からの研究支援

- ・ 弁理士による特許出願支援事業を7名の教員に対して実施
- ・ 2件の特許出願に関する審査を実施
- ・ Gear5.0 関連における研究遂行において知財的な調査などを弁理士に依頼

3. 知財の取扱い方法の整備

- ・ 特許出願に関する取扱いについて改定した
- ・ 審査請求および権利維持にかかる手続き方法について取り扱いを整備した

4. 各種連携事業等の推進

- ・ 長岡技大との連携協定事業を実施(産学連携フォーラム, コアファシリティ事業)
- ・ KDDI との包括連携協定に基づく講習会などを学内に展開
- ・ 信州大学工学部および繊維学部との連携協定を締結

令和3年度 研究支援委員会の重点項目への取組結果の点検

研究支援委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 外部資金獲得支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学研究費獲得に向けた添削指導等の実施 <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学研究費申請に向けた事前調査等を通じて申請促進活動を実施 2. 科学研究費獲得に向けた添削指導等を7名の教員に対して実施 	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第5回研究支援委員会、資料No.5より実施が確認できる。 2. 第5回研究支援委員会、資料No.5より実施が確認できる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部資金獲得に向けた RA (リサーチアドミニストレータ) による個別指導の実施 <ol style="list-style-type: none"> 1. 外部資金獲得に向けて RA による個別指導の実施 	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究協力課で資料が保管。年に2回校長に報告。
2. 特許出願および知財的側面からの研究支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特許発掘から特許出願に至るまでの支援の実施 <ol style="list-style-type: none"> 1. 弁理士による特許出願支援事業を7名の教員に対して実施 2. 2件の特許出願に関する審査を実施 	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究協力課に資料が保管。 2. 第4回、6回研究支援委員・議事要旨より実施は確認された。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知財的な側面からの研究活動支援の推進 	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 年2回。校長に報告。資料はない。

	1. Gear5.0 関連における研究遂行において知財的な調査などを弁理士に依頼		
3. 知財の取扱い方法の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・特許出願に関する基準の整備 <p>1. 特許出願に関する取扱いについて改定した</p>	○	1. 第2回研究支援委員会・議事要旨により実施は確認できる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・審査請求および権利維持にかかる手続き方法の明確化 <p>1. 審査請求および権利維持にかかる手続き方法について取り扱いを整備した</p>	○	1. 第3回、4回研究支援委員会・議事要旨により実施は確認できる。
4. 各種連携事業等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡技大との連携協定事業を実施(産学連携フォーラム, コアファシリティ事業) <p>1. 長岡技大との連携協定事業を実施(産学連携フォーラム, コアファシリティ事業)</p>	○	1. 第3回研究支援委員会・議事要旨により実施は確認できる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・KDDI との包括連携協定に基づく事業等の展開 <p>1. KDDI との包括連携協定に基づく講習会などを学内に展開</p>	○	1. 研究協力課に資料が保管。
	1. 信州大学工学部および織	○	1. 研究協力課に資料が保管。

	維学部との連携協定を締結		
--	--------------	--	--

(2) 次年度への提言

・研究支援委員会の重点項目に挙げてあるもので、以下の5件の資料が委員会に上がっていない。

1. 外部資金獲得に向けて RA よる個別指導の実施
2. 弁理士による特許出願支援事業を7名の教員に対して実施
3. Gear5.0 関連における研究遂行において知財的な調査などを弁理士に依頼
4. KDDI との包括連携協定に基づく講習会などを学内に展開
5. 信州大学工学部および繊維学部との連携協定を締結

これらは、研究協力課で資料は保管され、必要に応じて校長に報告が行われている。重点項目に挙げてある大切な内容であることから、次年度以降は、委員会資料に上げて議論していただき、教員集団への周知にも繋げていただきたい。

2-6. 令和3年度 広報企画室の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
広報企画室	委員長	1. 小中学生へのPR 2. 地域、地域企業へのPR 3. 学生、保護者、卒業生への情報発信

3つの重点項目について、各部門において以下のように活動する。

1. 公開企画部門

今年度の目標

- ・長野県下の小中学校における教育を側面から支援し、地域への貢献・地域との連携をより一層推進すること。また、理系の面白さを伝えることに加え、長野高専のPR、入試倍率確保への戦略を考える。そのために、地域で開催されるイベントに、積極的に参加する。

今年度の活動計画

- ・サイエンスツアー（出前授業）は連年通り募集し、サイエンス・ライブ（公開講座）は、オンライン開催のみとする。
- ・各種イベント（まつもと広域ものづくりフェア、体験と学びの環境博ー信州環境フェア2021ー、産業フェア in 信州2021、長野高専キッズサイエンス2021）は、実施に向けて準備を行う。
- ・産業フェア（長野しんきんビジネスフェア2021、ぞっこんさく市、諏訪圏工業メッセ2021、産業フェア in 信州2021、上田地域産業展2021）は、参加に向けて準備を行う。

2. 刊行物部門

今年度の目標

- ・小中学生、地域・企業、学生、保護者、卒業生にPR・情報発信するために、学園だよりの発行、オリジナルグッズ配付などを行う。

今年度の活動計画

- ・学園だよりは3回発行し、体験入学などのイベント時に配付する。
- ・消しゴム、定規、クリアファイルのオリジナルグッズを作成し、各所で配付する。
- ・入学案内・パンフレットを新デザインとし、学校要覧の改良も考える。

3. 情報発信部門

今年度の目標

- ・小中学生、地域・企業、学生、保護者、卒業生にPR・情報発信するために、年次作業に加え、作成から時間が経過したコンテンツの更新、新規のコンテンツの制作を行っ

ていく。

今年度の活動計画

- ・新学科への改組に向けたホームページ（HP）の検討を考える。
- ・メンテナンスを依頼し、年次作業についても、外部に依頼できる体制を検討する。
- ・HP のサイトメンテナンスや保守業務などを行い、HP の維持に努める。

令和3年度 広報企画室の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
広報企画室	委員長	1. 小中学生へのPR 2. 地域、地域企業へのPR 3. 学生、保護者、卒業生への情報発信

3つの重点項目について、各部門において以下のように活動を実施した。

1. 公開企画部門

- ・科学イベント関係では、2021 まつもと広域ものづくりフェアに3テーマ教員4人が参加したが、参加予定だった体験と学びの環境博信州環境フェア、ながの子ども・子育てフェスティバル、長野高専キッズサイエンスは中止等で参加しなかった。
- ・サイエンスツアーは、公開テーマ10件、別テーマ4件、実施件数：合計21件、参加者793名で、昨年度より大分増えた。
- ・サイエンスライブは、実施テーマ1件（目指せ小学生ロボコン！工作教室）であった。
- ・校内見学として1件（太陽光発電を体験しよう）を長野高専で開催した。
- ・産業フェア関連は、産業フェア in 信州 2021 に5ブース出展し、上田地域産業展 2021 にオンライン参加したが、しんきんビジネスフェア、ぞっこんさく市、諏訪圏工業メッセは中止で参加できなかった。
- ・その他に、NAGANO SDGs PROJECT に1件参加した。

2. 刊行物部門

- ・学園だよりは、182号、183号、184号を発行し、185号（R4年春号）は制作中である。
- ・定規、クリアファイル、シャープペンシル、消しゴム、七味アニバーサル缶のオリジナルグッズの追加発注をし、出前授業等で配布した。
- ・学校要覧については表紙のデザインのみ刷新し、入学案内ポスター、入学案内パンフレットは改組後の新たな内容を踏まえたものを制作中である。

3. 情報発信部門

- ・ウェブページ更新作業、更新サポート、ウェブシステム保守・管理を行った。
- ・新規ページとして、GEAR5.0プロジェクトおよびClass Room Englishを作成した。
- ・活躍するOB・OGおよび在校生からのメッセージ記事を新たに3件掲載した。
- ・新学科（工学科）の紹介ページの作成し、新規のランディングページを検討している。

令和3年度 広報企画室の重点項目への取組結果の点検

広報企画室において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

3つの重点項目に対して各部門で活動した結果を以下のように評価する。

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 公開企画部門	・サイエンスツアーは連年通り募集し、サイエンスライブは、オンライン開催のみとする。	○	昨年度より多く実施 第2回委員会報告
	・各種イベントの実施に向けて準備を行う。	△	1件参加、3件中止 第2回委員会報告
	・産業フェアの参加に向けて準備を行う。	△	2件参加、3件中止 第2回委員会報告
2. 刊行物部門	・学園だよりは3回発行し、体験入学などのイベント時に配付する。	◎	3回発行 第2回委員会報告
	・消しゴム, 定規, クリアファイルのオリジナルグッズを作成し各所で配付する。	◎	5種のグッズを追加発注、出前授業等で配布 第2回委員会報告
	・入学案内・パンフレットを新デザインとし、学校要覧の改良も考える。	○	第2回委員会報告
3. 情報発信部門	・新学科への改組に向けたホームページ(HP)の検討を考える	○	3月現在検討中 第2回委員会報告
	・メンテナンスを依頼し、年次作業についても、外部に依頼できる体制を検討する。	◎	第2回委員会報告
	・HPのサイトメンテナンスや保守業務などを行い、HPの維持に努める業務などを行い、ホームページの維持に努める	◎	第2回委員会報告

(2) 次年度への提言

- ・部門の活動が高専PR・入試倍率の維持・学生の確保につなげる方法の検討
- ・学科改組に伴う広報活動を本格的に実施

2-7. 令和3年度 グローバル教育推進センターの重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
グローバル教育推進センター	センター長	1. 国際交流センター コロナ禍での国際交流の持続と促進 2. グローバルエンジニア育成センター 授業への英語導入による学生のグローバル意識の育成 3. タイ協働センター プレミアムコース自立化に向けた支援

1. 国際交流センター重点項目

コロナ禍での国際交流の持続と促進

1. 1 重点項目を達成したかを判断する実施施策の内容

○協定校とのインターネット交流実施

- ・前年度の交流内容、交流回数、交流人数の比較
- ・交流後アンケートによる学生・教員の国際交流への関心の意識調査

○協定校のインターネットを介した学生受入実施

- ・交流後アンケートによる学生・教員のグローバルなつながりの中でのプロジェクトやエンジニアリングへの関心の意識調査

○本校留学生の学習・生活支援

- ・懇談会、意見交換会、センター会議での情報共有と問題改善

2. グローバルエンジニア育成センター重点項目

授業への英語導入による学生のグローバル意識の育成

2. 1 重点項目を達成したかを判断する実施施策の簡単な説明

○年度末学生アンケート調査 [英語学習調査]

3. タイ協働センター重点項目

プレミアムコース自立化に向けた支援

3. 1 重点項目を達成したかを判断する実施施策の簡単な説明

○タイ側主導によるアセスメント・入試実施に対する支援

○卒業研究準備・キャリア教育に対する支援

令和3年度 グローバル教育の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
グローバル教育推進センター	センター長	1. 国際交流センター コロナ禍での国際交流の持続と促進 2. グローバルエンジニア育成センター 授業への英語導入による学生のグローバル意識の育成 3. タイ協働センター プレミアムコース自立化に向けた支援

1. 国際交流センター重点項目

コロナ禍での国際交流の持続と促進

1. 1 重点項目を達成したかを判断する実施施策の内容

○協定校とのインターネット交流実施

- ・タイ、香港、シンガポールと実施
- ・交流後アンケートの実施

○協定校のインターネットを介した学生受入実施

- ・今年度は長期受入れを実施しなかった。その代わりに、AI 等に関する集中講座をシンガポール RP とオンライン開催

○本校留学生の学習・生活支援

- ・懇談会、意見交換会、センター会議での情報共有と問題改善を実施

2. グローバルエンジニア育成センター重点項目

授業への英語導入による学生のグローバル意識の育成

2. 1 重点項目を達成したかを判断する実施施策の簡単な説明

○学生のグローバル意識の育成

- ・前期2学年（全学生対象 20人クラス）、後期1学年（全学生対象 10人クラス）で少人数制英会話授業を開講
- ・ネイティブ教員による基礎英会話モデル授業の実施（12/13実施）

○英語による授業導入の促進

- ・クラスルームイングリッシュ実施アンケート(教員対象)の実施(7月実施)

- ・クラスルームイングリッシュ導入に向けた啓発ビデオ作製（各学科にて作成）

○年度末学生アンケート調査 [英語学習調査]

- ・年度末登校禁止のためオンラインアンケートにて実施

3. タイ協働センター重点項目

プレミアムコース自立化に向けた支援

3. 1 重点項目を達成したかを判断する実施施策の簡単な説明

○タイ側主導によるアセスメント・入試実施に対する支援の実施

- ・オンラインアセスメント中心に現地主導，高専支援で実施
- ・数学・理科・英語問題作成の現地化と高専サポート体制による実施
- ・現地教員の実験・実習サポートを目的とした実験関連ビデオ作成を実施、提供した
- ・科目間連携を考慮したタイ教員のグループ化を実施、連携に関する議論が出来るようになった

○卒業研究準備・キャリア教育に対する支援

- ・Diploma, Curriculum, Admission Policy の Draft 作成
- ・日系企業でのインターンシップ (13 社, 3 月開始)

令和3年度 グローバル教育推進センターの重点項目への取組結果の点検

グローバル教育推進センターにおいて提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. コロナ禍での国際交流の持続と促進	・協定校とのインターネット交流実施	◎	第12回センター会議で年間の活動状況について報告
	・協定校のインターネットを介した学生受入実施	◎	9/16～10/6に4回実施
	・本校留学生の学習・生活支援	◎	・チューター(X人、Y時間業務実施)を配置 ・6/23 懇談会・2/4 意見交換会を実施 ・毎回のセンター会議で情報共有と問題改善
2. 授業への英語導入による学生のグローバル意識の育成	・年度末学生アンケート調査 [英語学習調査]	◎	2/2 オンラインアンケートにて実施
3. プレミアムコース自立化に向けた支援	・タイ側主導によるアセスメント・入試実施に対する支援の実施	◎	タイテクニカルカレッジ KOSEN・プレミアムコース支援事業(R3/12/10 協力支援幹事校報告)等
	・卒業研究準備・キャリア教育に対する支援	◎	Details of Workplace for year4th Student Internship(21/12/9)等

(2) 次年度への提言

- ・コロナ禍からの脱出を念頭に置き、人的交流を含めた他教育機関との連携の強化し、グローバル化教育の質を向上させる。
- ・国際寮の活用を推進する。
- ・留学生の学習・生活支援に関して、チューターの役割や留学生の支援の方法についての

事前教育を強化するとともに、留学生担任へチューターの支援状況の確認を依頼。

2-8. 令和3年度 教育改善委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
教育改善委員会	委員長	1. 各種委員会の活動状況の点検 2. 授業改善システムの実施と評価・点検 3. FD 研修会の企画・開催と評価 4. エビデンス収集・保管

1. 各種委員会の活動状況の点検
 - ・委員会の活動重点項目の確認
 - ・活動結果の把握および点検

2. 授業改善システムの実施と評価・点検
 - ・授業改善システムの実施
 - ・授業改善システムの点検、評価

3. FD 研修会の企画・開催と評価
 - ・FD 研修会の企画と実施
 - ・FD 研修会の実施後点検、評価

4. エビデンス収集・保管
 - ・エビデンス収集・保管の実施

令和3年度 教育改善委員会の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
教育改善委員会	委員長	1. 各種委員会の活動状況の点検 2. 授業改善システムの実施と評価・点検 3. FD 研修会の企画・開催と評価 4. エビデンス収集・保管

3つの重点項目について、以下のように活動を実施した。

1. 各種委員会の活動状況の点検

- ・委員会の活動重点項目の確認を実施した。本年度は、学生教育に係る教育支援センター、図書館を追加して活動状況の点検を行った。各委員会への照会が遅くなってしまったので、次年度は年度早期に実施したい。
- ・活動結果の把握および点検は、年末にフォローを行い、3月中旬までに状況把握および教育改善委員会でのチェックができるように対応した。

2. 授業改善システムの実施と評価・点検

- ・授業改善システムに基づく点検を9月に実施した。なお、学年末到達度試験のレベル確認作業が3月になってしまった。
- ・授業改善システムを点検し、授業アンケート等学生課各部署に分散管理されているため、学生課長補佐に集約して管理されるよう依頼した。

3. FD 研修会の企画・開催と評価

- ・FD 研修会の企画と実施は、関連委員会と連携して、4件の研修会を企画・実施した。
- ・FD 研修会の実施後点検、評価は、実施後アンケートを行い、出席者からの評価を検討した。教員研修としてふさわしい内容であったとの多くの評価を得ている。

4. エビデンス収集・保管

- ・エビデンス収集・保管を定期試験後に実施した。

シラバスに基づく評価の実践、前年問題との非同一性の自己点検および委員会によるチェックを導入した。令和3年度 広報企画室の重点項目への取組結果の点検

広報企画室において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

令和3年度 教育改善委員会の重点項目への取組結果の点検

グローバル教育推進センターにおいて提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

3つの重点項目に対して各部門で活動した結果を以下のように評価する。

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 各種委員会の活動状況の点検	委員会の活動重点項目の確認を実施した。本年度は、学生教育に係る教育支援センター、図書館を追加して活動状況の点検を行った。各委員会への照会が遅くなってしまったので、次年度は年度早期に実施したい。	△	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度第2回教育改善委員会議事概要 議題5 5月28日委員長発信 Gmail
	活動結果の把握および点検は、年末にフォローを行い、3月中旬までに状況把握および教育改善委員会でのチェックができるように対応した。	◎	<ul style="list-style-type: none"> 12月15日校内メール
2. 授業改善システムの実施と評価・点検	授業改善システムに基づく点検を9月に実施した。なお、学年末到達度試験のレベル確認作業が3月になってしまった。	△	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度第1回教育改善委員会議事概要 議題2
	授業改善システムを点検し、授業アンケート等学生課各部署に分散管理されているため、学生課長補佐に集約して管理されるよう依頼した。	○	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度第3回教育改善委員会議事概要 議題2
3. FD研修会の企画・開催と評価	FD研修会の企画と実施は、関連委員会と連携して、4件の研修会を企画・実施した。	◎	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度第2回教育改善委員会議事概要 議題6 令和3年度第4回教育改善委員会議事概要 報告2
	FD研修会の実施後点検、評価は、実施後アンケートを行い、出席者からの評価を検討した。教員研修としてふさ	◎	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度第4回教育改善委員会議事概要 報告1

	わしい内容であったとの多くの評価を得ている。		
4. エビデンス収集・保管	エビデンス収集・保管を定期試験後に実施した。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度第3回教育改善委員会議事概要 議題4 ・令和3年度第3回教育改善委員会議事概要 報告4 ・令和3年度第4回教育改善委員会議事概要 議題1
	シラバスに基づく評価の実践、前年問題との非同一性の自己点検および委員会によるチェックを導入した。		<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度第2回教育改善委員会議事概要 議題7 ・令和3年度第3回教育改善委員会議事概要 議題5 ・令和3年度第4回教育改善委員会議事概要 議題2

(2) 次年度への提言

- ・ タイムリーな点検作業の実施
- ・ 実効性の高い点検システムへの改善

2-9. 令和3年度 男女共同参画推進室の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
男女共同参画推進室	男女共同参画 推進室長	1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進 2. 男女共同参画の意識啓発 3. 女性教職員に対する労働環境支援

1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進

- ・ 在学生のキャリア支援のための施策実施
- ・ 女子中学生の入学支援施策実施
- ・ 在学生へのアンケートによる環境整備希望調査の実施

2. 男女共同参画の意識啓発

- ・ ダイバーシティ関連講演会の実施
- ・ 学会等の学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内
- ・ 男女共同参画関連 web site の充実
- ・ 他高専における取組に関する情報収集、研修

3. 女性教職員に対する労働環境支援

- ・ 女性教職員就業支援 インターンシップ制度の実施
- ・ 教職員アンケート (1. のアンケートに準ずる)

令和3年度 男女共同参画推進室の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
男女共同参画推進室	男女共同参画推進室長	1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進 2. 男女共同参画の意識啓発 3. 女性教職員に対する労働環境支援

1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進

- ・在学生のキャリア支援のための施策検討
 - 各学科において、本校OG等を招いたキャリアセミナーを開催した。在学生在が卒業生からワークライフバランスや、実際の業務内容について学ぶ機会を提供できた。
- ・女子中学生の入学支援施策検討
 - 女子中学生向けのリーフレットを、在学生の協力を得て県下の33校に配布した。配布先の中学校から概ね好評を得た。配布協力してくれた学生から、どのような方法が良いかも事後アンケートで意見収集した。
- ・在学生へのアンケートによる環境整備希望調査の実施
 - 5月に学生アンケートを実施し、推進室の活動のうち重要と考えるものについて選択してもらったほか、自由記述で必要な設備、対応等について意見を募った。学生アンケートの自由記述では男子更衣室に関する意見が寄せられ、学生課が計画した男性更衣室の設置に際しその意見を提供した。

2. 男女共同参画の意識啓発

- ・ダイバーシティ関連講演会の実施
 - 豊橋技術科学大学副学長（ダイバーシティ推進担当）に依頼し、教育機関における男女共同参画の取り組みに関する講演会を実施した。校内から90名の聴講があり、多くのコメントも寄せられた。
- ・学会等の学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内
 - 機構、自治体、学会などから寄せられる、セミナー、助成金情報、女子学生を対象としたイベントの案内などを随時メールにて情報提供した。学生向けの案内は今年度延べ10件実施した。
- ・男女共同参画関連 web site の充実
 - 本校 web site に男女共同参画推進室のページを開設されており学内教職員、一般向けにも必要な情報が入手できる構成となっているが、情報の更新が滞っているため、充実の必要がある。

- ・他高専における取組に関する情報収集、研修
- 豊橋技大よりダイバーシティ関連のセミナーの案内を受け、10月、11月に開催されたオンラインセミナーに推進室員が出席した。

3. 女性教職員に対する労働環境支援

- ・女性教職員就業支援 インターンシップ制度の準備
- 本年度もコロナのため実施できなかったため、内容を改組に合わせ修正し、令和4年度より実施する。
- ・教職員アンケート
- Teams form を用いて全教員を対象に実施した。例年年度末の3月に実施し、4月からの活動内容に反映させることとしている。令和3年3月の実施では48件の回答があり15件の自由記述での意見が寄せられ、同年の講演会の実施内容に反映した。

- ・その他
- 教職員に対する環境支援の一環として、祝日、休日の業務日における校内での一時保育を実施した。令和4年度入学者選抜の日程を対象に7名の幼児・児童の預け入れがあった。

令和3年度 男女共同参画推進室の重点項目への取組結果の点検

男女共同参画推進室において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

1. 男女共同参画推進室

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進	・在学生のキャリア支援のための施策検討	◎	・第2回男女共同参画推進室会議報告資料 No.1 (R3.5.27) ・第10回男女共同参画推進室会議資料 No.2 (R4.1.27)
	・女子中学生の入学支援施策検討	◎	・第2回男女共同参画推進室会議資料 No.3 (R3.5.27) ・第2回男女共同参画推進室会議資料 No.5 (R3.5.27) ・第5回男女共同参画推進室会議資料 No.2 (R3.8.26)
	・在学生へのアンケートによる環境整備希望調査の実施	○	・第1回男女共同参画推進室会議資料 No.3 (R3.4.15)
2. 男女共同参画の意識啓発	・ダイバーシティ関連講演会の実施	◎	・第2回男女共同参画推進室会議資料 No.4 (R3.5.27) ・第3回男女共同参画推進室会議資料 No.4 (R3.6.25) ・第4回男女共同参画推進室会議資料 No.2 (R3.7.29) ・第5回男女共同参画推進室会議資料なし (R3.8.26)

			R3. 8. 26, 14:00~15:30 第1回FD研修会実施 ・第6回男女共同参画推進室会議資料 No. 2 (R3. 9. 30)
	・学会等の学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内	○	・第6回男女共同参画推進室会議資料 No.3 (R3. 9. 30)
	・男女共同参画関連 web site の充実 ・他高専における取組に関する情報収集、研修	○	・第10回男女共同参画推進室会議資料 No.1 (R4. 1. 27)
3. 女性教職員に対する労働環境支援	・女性教職員就業支援 インターンシップ制度の準備	△	・第5回男女共同参画推進室会議資料なし (R3. 8. 26) ・第6回男女共同参画推進室会議資料 No.1 (R3. 9. 30)
	・教職員アンケート	◎	・第1回男女共同参画推進室会議資料 No.3 (R3. 4. 15) ・第11回男女共同参画推進室会議資料なし (R4. 2. 24)

(2) 次年度への提言

- ・website の充実を意識啓発の取り組みとして、情報更新の充実が必要である。
- ・女性教職員就業支援 インターンシップの実績が必要である。

2-10. 令和2年度 教育支援センターの重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
教育支援センター	教務主事	1. 学力向上への教育支援 2. コロナウィルス対応 3. 教員間の連携と協働教育の推進 4. 安全性の向上

1. 学力向上への教育支援

- ・ BYOD PC の活用（情報教育センター）
- ・ 実験・実習系授業の支援（技術教育センター）
- ・ 物作り系課外活動等の支援（技術教育センター）

2. 教員間の連携と協働教育の推進

- ・ Teams によるグループ作業推進（情報教育センター）
- ・ 製作依頼及び技術指導依頼への対応（技術教育センター）
- ・ 卒業研究、特別研究の装置製作等の支援（技術教育センター）

3. コロナウィルス対応（情報教育センター）

- ・ オンライン授業に対する準備
- ・ 教職員のリモートワークに対する準備

4. 安全性の向上（技術教育センター）

- ・ 機器及び工具等の破損における原因究明と対策
- ・ 利用する学生の利用規則及び注意事項の見直し
- ・ 安全基本作業講習会及び機械加工基礎実習の実施
- ・ 技術職員の技能向上（技能検定の受検）
- ・ 設備の更新・保守・点検

令和3年度 教育支援センターの重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
教育支援センター	センター長	1. 学力向上への教育支援 2. コロナウィルス対応 3. 教員間の連携と協働教育の推進 4. 安全性の向上

1. 学力向上への教育支援

- ・BYOD PC の活用（情報教育センター）
 - R3 年度 1 年生に BYOD PC を導入
 - 保護者からの質問に回答するフォームを設置
 - ネットワーク利用の講習・アカウント設定等安定的な運用
 - R3 年度 1 年生に対する導入後のアンケート実施（12 月）
 - R4 年度 1 年生向け購入案内と質問対応
- ・実験・実習系授業の支援（技術教育センター）
 - 安全基本作業講習会、機械加工基礎実習の実施
 - 機械工学科 2 年、3 年、4 年と電子制御工学科 3 年、4 年の支援を実施
- ・物作り系課外活動等の支援（技術教育センター）
 - ロボコン、航空・ロボット製作部、ソーラーカー研究部、エコノパワー部の支援
 - 技能五輪同好会の技能検定の練習及び受検の支援
 - 工嶺祭のクラス企画等における物作りの支援

2. 教員間の連携と協働教育の推進

- ・Teams によるグループ作業推進（情報教育センター）
 - Teams をハブとしてオンライン上でのグループ作業が活発に行われている
- ・製作依頼及び技術指導依頼への対応（技術教育センター）
 - 教員等からの製作依頼への対応
- ・卒業研究、特別研究の装置製作等の支援（技術教育センター）
 - 卒業研究、特別研究の学生に対する安全指導、機器や道具の使い方指導等を実施

3. コロナウィルス対応（情報教育センター）

- ・オンライン授業に対する準備

Teams によるオンライン授業の問題に随時対応

外部ネットワークからのアクセスを試すための WAN 環境を準備し、学生が実際にアクセスしてどのようなエラーが発生しているかを模擬できる環境を整備

- ・教職員のリモートワークに対する準備

いくつかの VPN/リモートデスクトップ環境の評価を実施

Chrome Remote Desktop を選定し 5 月中に総務課で数回実験

ネットワーク環境を整備し、いつでもリモートに切り替え可能な状態にある

4. 安全性の向上（技術教育センター）

- ・機器及び工具等の破損における原因究明と対策

機器及び工具破損による原因対策報告

- ・利用する学生の利用規則及び注意事項の見直し

「技術教育センターの利用方法」の改訂

- ・安全基本作業講習会及び機械加工基礎実習の実施

安全基本作業講習会、機械加工基礎実習の実施

- ・設備の更新・保守・点検

第一工場の水道管の水抜き用ドレンバルブの交換

ひざ型立フライス盤の設置

レーザー加工機の保守

コンプレッサの更新

令和3年度 教育支援センターの重点項目への取組結果の点検

教育支援センターにおいて提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

1. 教務委員会

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 学力向上への教育支援	<ul style="list-style-type: none"> ・BYOD PC の活用（情報教育センター） 1. R3 年度1年生にBYOD PC を導入 2. 保護者からの質問に回答するフォームを設置 3. ネットワーク利用の講習・アカウント設定等安定的な運用 4. R3 年度1年生に対する導入後のアンケート実施（12月） 5. R4 年度1年生向け購入案内と質問対応 	◎	第50回(令和3年度第1回)情報セキュリティ推進委員会・情報教育センター委員会 議事録 第51回(令和3年度第2回)情報セキュリティ推進委員会・情報教育センター委員会 議事録 第57回(令和3年度第8回)情報セキュリティ推進委員会・情報教育センター委員会 議事録
	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習系授業の支援（技術教育センター） 1. 安全基本作業講習会、機械加工基礎実習の実施 2. 機械工学科2年、3年、4年と電子制御工学科3年、4年の支援を実施 	◎	第8回運営会議資料難波Ⅱ-10 教育支援センター報告
	<ul style="list-style-type: none"> 物作り系課外活動等の支援（技術教育センター） 1. ロボコン、航空・ロボット製作部、ソーラーカー研究部、エコノパワー部の支援 	◎	技能五輪の支援については11回運営会議資料No.Ⅱ-10 教育支援センター報告

	<p>2. 技能五輪同好会の技能検定の練習及び受検の支援</p> <p>3. 工嶺祭のクラス企画等における物作りの支援</p>		部活やクラス企画については、第8回運営会議資料 No. II-10 教育支援センター報告
2. 教員間の連携と協働教育の推進	<p>・ Teams によるグループ作業推進（情報教育センター）</p> <p>Teams をハブとしてオンライン上でのグループ作業が活発に行われている</p>	△	実施状況を示す資料が見つけれなかった。
3. コロナウイルス対応（情報教育センター）	<p>・ オンライン授業に対する準備</p> <p>1. Teams によるオンライン授業の問題に随時対応</p> <p>2. 外部ネットワークからのアクセスを試すための WAN 環境を準備し、学生が実際にアクセスしてどのようなエラーが発生しているかを模擬できる環境を整備</p>	◎	第8回運営会議資料 No. II-10 教育支援センター報告
	<p>教職員のリモートワークに対する準備</p> <p>いくつかのVPN/リモートデスクトップ環境の評価を実施</p> <p>1. Chrome Remote Desktop を選定し5月中に総務課で数回実験</p> <p>2. ネットワーク環境を整備し、いつでもリモートに切り替え可能な状態にある</p>	◎	リモートワークへの備えについては・・・第8回運営会議資料 No. 難波 II-10 教育支援センター報告
4. 安全性の向上（技術教育センター）	<p>機器及び工具等の破損における原因究明と対策機器及び工具破損による原因対策報告</p> <p>利用する学生の利用規則及び注意事項の見直し</p>	○	令和3年4月14日改訂版「技術教育センターの利用方法」

	<p>「技術教育センターの利用方法」の改訂</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全基本作業講習会及び機械加工基礎実習の実施 2. 安全基本作業講習会、機械加工基礎実習の実施 3. 設備の更新・保守・点検 <ol style="list-style-type: none"> ① 第一工場の水道管の水抜き用ドレンバルブの交換 ② ひざ型立フライス盤の設置 ③ レーザー加工機の保守 ④ コンプレッサの更新 	<p>機械加工基礎実習などの実施については、</p> <p>ドレンバルブについては11回運営会議資料 No. II-10 教育支援センター報告</p> <p>フライス盤については9回運営会議資料 No. II-10 教育支援センター報告</p> <p>コンプレッサについては第10回運営会議資料 No. II-12 教育支援センター報告</p>
--	--	--

(2) 次年度への提言

- ・コロナ感染予防対策として、工場や端末室での対応への報告が必要であったと思われる。資料をみていると、検討と実施が行われている。
- ・安全性の向上については、具体的な、実施項目は並んでいるが、その結果どのように向上したのかが不明である。数値目標などにすることで見える化してほしい。
- ・BYODの導入については、アンケートが実施されているので、その結果を分析し、次年度への取り組み計画を明示すべきであろう。
- ・会議議事録が公開されていないので、次年度は公開してほしい。

2-11. 令和3年度 図書館の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
図書館	館長	1. 図書館利用の促進 2. 図書館購読雑誌について検討 3. 電子ジャーナル・データベースの利用促進

1. 図書館利用の促進

- ・授業、学習、研究での利用方法の研究、サポートを充実する。
- ・図書館講演会、ブックハンティング、ビブリオバトルを例年企画し実施している。しかし、今年度はコロナ感染症への対応で実施を見送ることになっている。来年度以降、通常運営に戻った場合に、すぐに再開できるように準備を進めておく。

2. 図書館購読雑誌について検討

- ・図書館購読雑誌、図書館利用等アンケートを実施する。

3. 電子ジャーナル・データベースの利用促進

- ・授業・卒研・特別研究等での利用促進とサポート体制を整え、そのことについて教員および学生に周知し活性化を図る。

令和3年度 図書館の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
図書館	館長	1. 図書館利用の促進 2. 図書館購読雑誌について検討 3. 電子ジャーナル・データベースの利用促進

3つの重点項目について、以下のように活動を実施した。

1. 図書館利用の促進

- ・ 新入生へのオリエンテーションの実施した。
図書館長による新入生への図書館紹介を行った。
国語の時間を利用して、図書館運営委員による図書館利用ガイダンスを実施した。
- ・ 講読希望図書のリクエストに関して Web ページを開設し学生のリクエストを募った。
- ・ ブックハンティング、ビブリオバトルの実施を計画したが、新型コロナウイルス感染症防止のために実施は見合わせた。
- ・ 図書館講演会の実施を企画したが、新型コロナウイルス感染症防止のために実施は見合わせた。

2. 図書館購読雑誌について検討

- ・ 図書館購読雑誌に関する実施した。
- ・ メール審議にて行動雑誌の継続の可否について検討し、令和2年度実績に対して2雑誌を削減、1雑誌を追加した。

3. 電子ジャーナル・データベースの利用促進

- ・ 講読雑誌の削減の可否に関連して、電子ジャーナルの利用を教員に促した。

令和3年度 図書館の重点項目への取組結果の点検

図書館において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 図書館利用の促進	授業、学習、研究での利用方法の研究、サポートを充実する。	◎	・1年生への図書館紹介実施 ・国語の時間でガイダンス実施
	図書館講演会、ブックハンティング、ビブリオバトルを例年企画し実施している。	△	・コロナ感染対策のため中止
2. 図書館購読雑誌について検討	図書館購読雑誌、図書館利用等アンケートを実施する。	×	・アンケート実施及び結果が確認できず
3. 電子ジャーナル・データベースの利用促進	授業・卒研・特別研究等での利用促進とサポート体制を整え、そのことについて教員および学生に周知し活性化を図る。	△	・教員への電子ジャーナル購読確認

(2) 次年度への提言

- ・議事録で図書館利用アンケートの実施が確認できなかったため、アンケート結果の公開が求められる。
- ・ブックハンティングやビブリオバトルについて、感染対策に配慮した実施検討が求められる。
- ・学生向けの授業や卒研での電子ジャーナル利用促進や周知が求められる。

3. 令和3年度における各種点検報告

3-1. 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検

令和3年度 学習・教育目標の達成度自己評価調査票は教務委員会によりアンケートを実施し、集計結果が教務委員会で報告された。

学習・教育目標の達成度自己評価調査票の集計結果

2022.3.11 機械工学科 北山

1. 設問

1.1 質問

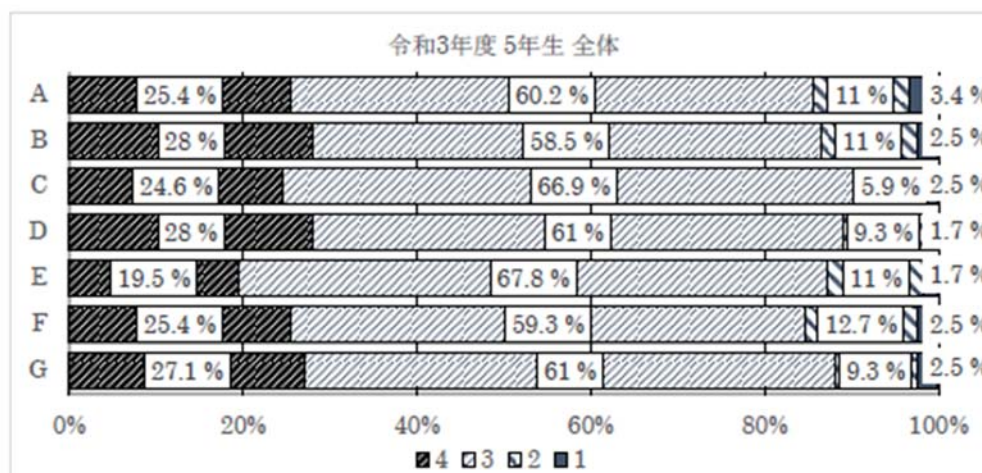
種類	学習・教育目標
A	世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できますか？
B	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べることができますか？
C	機械、電気電子、情報または土木の工学分野に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できますか？
D	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できますか？
E	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決できますか？
F	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論ができますか？
G	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行できますか？

1.2 選択肢

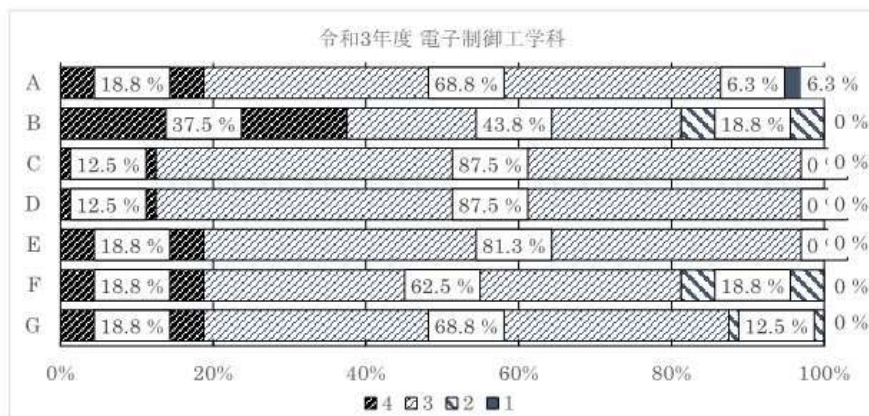
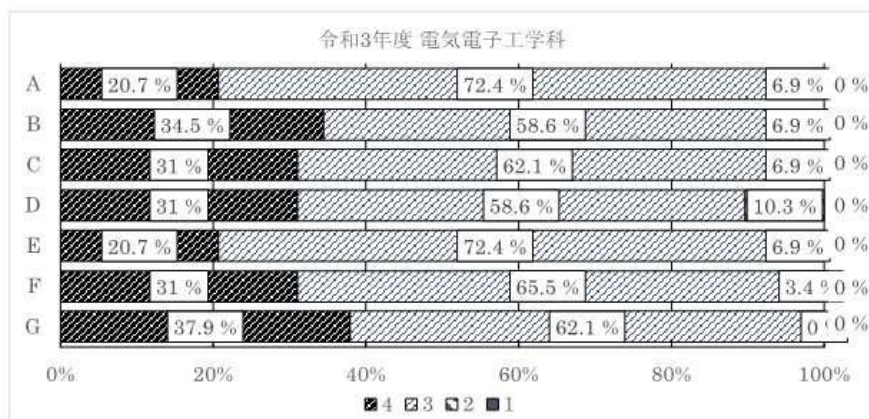
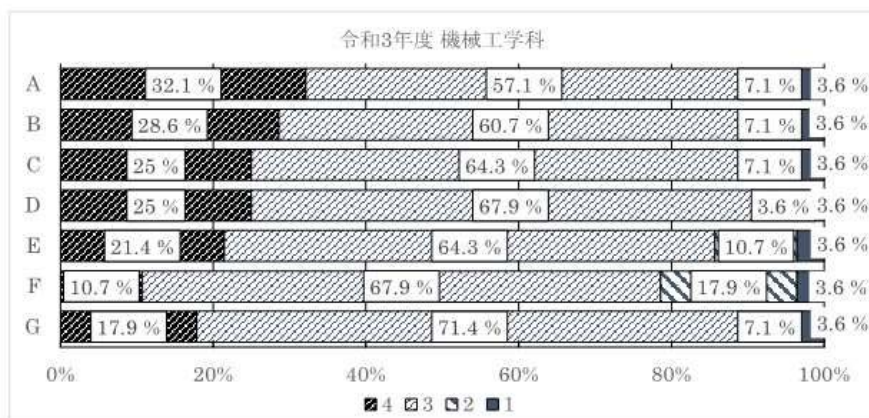


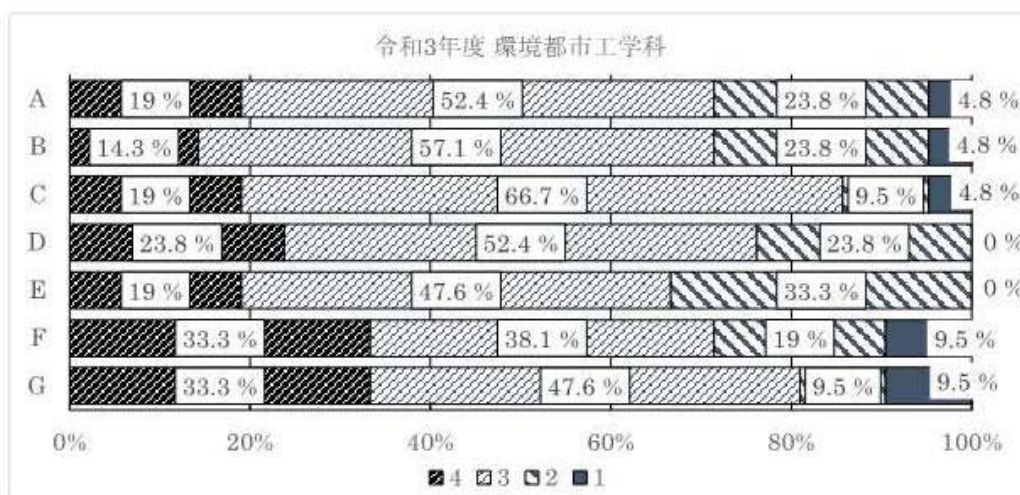
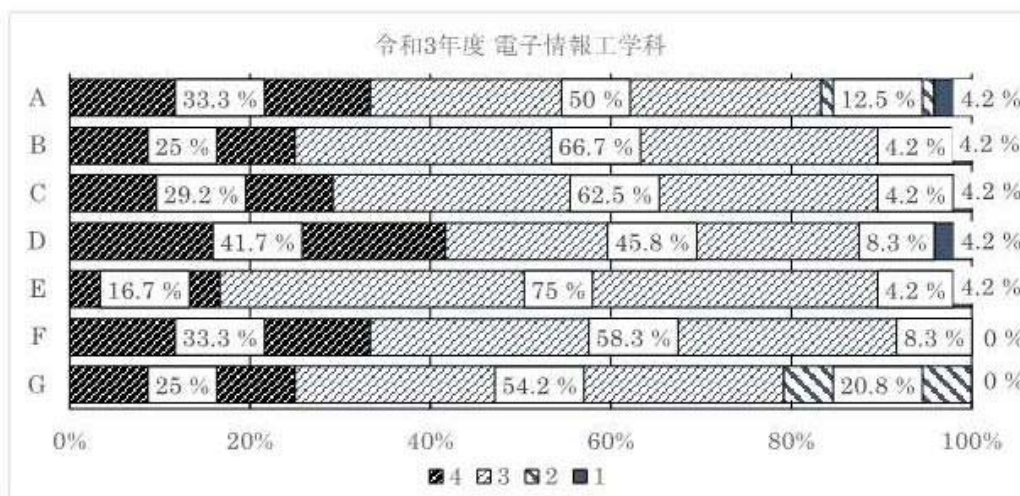
2. 全体の集計結果

M: 28名, E: 29名, S: 16名, J: 24名, C: 21名, 全体: 118名



3. 学科ごとの集計結果





【分析】

- ・令和3年度の5年生は、学習教育目標のA~Gの全てにおいて、9割に近い学生が3以上のスコアを付けている。
- ・C・D・Gにおいては、9割以上の学生が、3以上のスコアである。
- ・C・D・Gは工学の基礎への理解と応用力を含む学習・教育目標であり、教育の達成度として一定の評価をすることができよう。
- ・なお、以上の結果は昨年と同様な調査（昨年度の教育改善報告書48ページを参照）を超えるものであり注目される。
- ・各科の傾向としてみられるのが、電子情報工学科が、自己評価が高く、環境都市工学科では低くみる学生が多い傾向である。これは昨年の傾向とは合致しているとはいえ、クラス単位での傾向と考えるべきであろう。

3-2. 令和3（2021）年度参与会の報告書の点検と出された改善点の整理

令和3（2021）年2月12日（金）に第17回長野高専参与会が実施され、その概要が報告書「第17回 長野工業高等専門学校参与会議事概要」にまとめられている。この報告書の内容に基づき、本校が今後取り組むべき課題は何か、以下に報告する。

1. 参与会の概要

(1) 出席者

- ・ 参与会のメンバー → 9名
- ・ 本校関係者 → 校長他 16名(内 オブザーバー 10名)

(2) テーマ → 「長野高専の現状と課題について」

(3) 協議題

- 1) コロナウイルス感染症拡大防止の本校の取組について
- 2) 学科等改組について
- 3) 長野高専基金について
- 4) 国際寮について

(4) 議事内容

参与会会長である天野良彦信州大学工学部長が議長となり、議事が進行された。上記の協議題ごとに本校担当者より配布資料に基づいた説明があり、その後質疑応答が行われ、参与会のメンバーよりいくつかの貴重な提言をいただいた。

2. 今後の課題

参与会の質問・意見を基にして、今後本校が取り組むべき課題を整理した。

- (1) 実験実習，企業見学，一般実習などの検討。
- (2) 実習を動画で見せるなど工夫の検討。
- (3) リモート授業の検討。
- (4) 進学，就職時期のサポート体制の検討。
- (5) 校内学習塾の検討。
- (6) サブメジャー履修の検討。
- (7) 長野高専基金の目的や分野などの検討。
- (8) 国際寮の宿泊などの検討。

なお、長野高専ホームページ 外部評価報告

<http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/out/index.php>

を参照されたし。

3. 令和3（2021）年度の参与会からの要望等

令和3（2021）年度の第18回長野高専参与会が令和4（2022）年2月8日（火）に開催され

以下の要望等を頂いた。

1. 専門の勉強だけでなく、グローバル教育やリベラルアーツにも力を入れて、視野の広い多様性に富んだ学生を育ててほしい。
2. 自己点検評価項目が 58 項目と多い、高専の実態を把握し切れていない中での評価は難しい。
3. 新しい取組を始めた内容をもっとアピールして学生を多く集めて倍率を上げてほしい。
4. 学生の高いスキルを地元や地域に還元して、高専のイメージをアップしてほしい。
5. 寮生が何か地域貢献できる機会を作ってほしい。
6. 義務教育でも GIGA スクールが始まり、IT やプログラミングに興味をもつ子が増えてくると思う。これから発展していく最先端技術に触れられる機会を作してほしい。
7. 卒業して 3 年くらいの人たちの声を聞き、PDCA を回してほしい。
8. いろいろな活動や研究成果もあるので、もっと地域に情報公開をしてほしい。
9. 寮は寮の良さがある予算をあまりなくさないような形で運営してほしい。
10. 工学部とは、教育的部分、DX や IT 関係に関して引き続き連携を強化してほしい。

3-3. 実施済み研修会の効果の点検およびその改善

令和3年度には3回（うち第2回は2部構成）のFD研修会が開催された。研修会の効果を点検するためFD研修会終了後に参加者に対してアンケート調査を実施した。研修会の内容が活かされているかどうかについて、開催回ごとに内容を報告および分析する。

(1) 第1回 「男女共同参画推進について考えましょう～必要性と取り組み事例紹介」

形式：web 会議システムによるオンライン，リアルタイム講演，Microsoft Teams
(8/26 実施、90 名参加)

女性活躍推進法の施行以降、高専機構、大学、企業、自治体では今まで以上に男女共同参画を積極的に推進してきた。しかし工学分野は最も遅れているという現状から、工学分野での男女共同参画(ダイバーシティ)推進の必要性について提示された。講義の後に質疑応答を設け、4 件の質疑が交わされた。また終了後のアンケート回答は 59 件であり、本テーマへの関心の深さが反映された研修となった。

(2) 第2回 「代々木ゼミナール講師による英語モデル授業」(教育力向上・第1部)

※第2回は「教育力向上」に向けて、2部構成で別日に実施している。

形式：100 番教室（併せて Microsoft Teams による遠隔参加）(9/7 実施、40 名参加)

現役塾講師による講義形式の研修会で、①英語のモデル授業による授業の進め方(福崎伍郎先生) ②授業アンケート分析データにより学生のニーズをつかみ教育効果を上げていくための授業のポイント等(吉田 敦先生)について紹介された。また本校の視察に来訪された高専機構 坪田知広理事による「高専の現在及び将来像について」の講話も行われた。それぞれの講演・講話について会場から複数の質疑応答があり、今後の学生への教育を行う上で有用な内容であった。なおアンケート調査は実施していない。

(教育力向上・第2部)

形式：Teams によるオンライン（全体会議とグループワーク）

第1部の研修における課題を念頭に、実際の授業を各教員が事前に5~10分程度で録画し、少人数のグループで授業動画を視聴して意見交換を行った。その後、11月の授業公開の参観推薦授業を各グループで2つ程度決めた。本研修に向けて、それぞれの教員による事前準備がよくされており、グループワークでの動画や教材の発表からも日頃の授業における工夫がうかがえるものが多くあった。また多くのグループで当初予定していた時間を超えるほどの白熱した議論が行われ、今後の授業改善にもつながるものと期待される。

(3) 第3回 「これからの長野高専に期待すること」 (12/17 実施、47 名参加)

形式：100 番教室（併せて Microsoft Teams による遠隔参加）

現状として長野県の 15 歳以上の不登校、中退、自死、発達障害についての情報の提示があった。これらの予防的な学生指導のすすめとして、子どもをどう理解するか、子どもの成長をどう支援するか（支援ニーズ）を「行動分析学」「心理的発達」「社会的発達、特別支援教育」の観点からの説明があった。高校生以上の学生を教育する高専というシステムにとって、本研修は身近で適切なテーマであったといえる。また研修後のアンケートは 36 件の回答があった。約 7 割の回答者から「FD 以外の教育技術向上の活動をしている」と回答を得た。今回のテーマについては 10 割が「満足」または「やや満足」であり、6 割弱が「内容に興味を持てた」との回答を得た。約 9 割の回答者から今後の教育活動の参考に「大いになった」または「ややなった」との回答を得た。開催時期も今回の時期が適当であるという回答が 8 割を超えていた。

(4) まとめ

今年度は 3 回（うち第 2 回は 2 部構成）の FD 研修会が開催された。第 2 回の 2 部では対面の研修を行ったが、それ以外は遠隔とのハイブリッドで開催された。男女共同参画における高等教育機関（特に理工学系）における現状、教員の教育力向上のための講習やトレーニング、および今後の高専教育で必須となる学生へのケアについて考える機会を持てた。アンケート結果や当日の質疑応答から、テーマ設定や講演内容への興味に対して高い評価を得たと思われる。またアンケートは Web 上のフォームから回答する方法をとったが、問題なく実施できた（アンケートは第 1 回、第 3 回で実施）。

(5) 参考資料

本校で開催されている過去 10 年間の FD 研修会のテーマは以下の通りである。

令和 2 年度

- ・第 1 回 「リアルタイム型授業，オンデマンド型授業，課題配信型授業ほかについて」
- ・第 2 回 「リアルタイム型授業，オンデマンド型授業，課題配信型授業ほかについて」
- ・第 3 回 「男女共同参画推進に関する意識啓発 なぜ「女性研究者支援」か ー信州大学における男女共同参画推進この 10 年ー」
- ・第 4 回 「英語学習の楽しさを再発見する：EGP と ESP の統合を目指して」

令和元年度

- ・第 1 回 学習指導要領改訂で目指される学力観～教育の三つの柱と「主体的・対話的で深い学び」の関連から～
- ・第 2 回 教育の方法—発達・〈教師・生徒〉関係をふまえて—
- ・第 3 回 クラスルーム・イングリッシュ研修—グローバルエンジニア人材育成プログラムに向けて—
- ・第 4 回 いじめ予防と学生のためのソーシャルワーク

平成 30 年度

- ・第1回 Introduction to CDIO
- ・第2回 サイバーセキュリティの重要性～攻撃の手口と対策～

平成 29 年度

- ・第1回 教育・研究活動における著作権
- ・第2回 モデルコアカリキュラムの実践推進—東京高専におけるカリキュラム改革
- ・第3回 授業力向上研修(CTT+のスキルを授業に取り入れ、アクティブ・ラーニング型授業へ)
- ・第4回 情報セキュリティ教育の重要性と信大での取組み

平成 28 年度

- ・第1回 高専卒業生アンケートから見る高専教育の地平【高専の今後】
- ・第2回 情報セキュリティに関する講話・本校におけるセキュリティインシデントの事例【情報セキュリティ】
- ・第3回 アクティブ・ラーニング【教育手法】

平成 27 年度

- ・第1回 科研費獲得の方法とコツ【研究費獲得】
- ・第2回 アクティブ・ラーニング【教育手法】
- ・第3回 高専卒業生キャリア調査【調査結果】

平成 26 年度

- ・第1回 情報モラルと情報セキュリティ【情報セキュリティ】
- ・第2回 学生の自主性を延ばす方策【教育手法】
- ・第3回 高専を取り巻く現状と新たなる高等教育機関【高専の今後】

平成 25 年度

- ・第1・2回 心の健康【メンタルヘルス】
- ・第3回 イノベーティブジャパンプロジェクト【教育手法】

平成 24 年度

- ・第1回 キャリア形成支援【キャリア教育】
- ・第2回 モデルコアカリキュラム【教育手法】

平成 23 年度

- ・第1回 科学研究費採択数アップのための講習【研究費獲得】
- ・第2回 サンドルの対話型講義の思想と方法【教育手法】

4. 令和3年度 FD 研修会実施報告

4-1. 令和3年度 第1回 FD 研修会

2021年9月30日

令和3年度 第1回 FD 研修会報告書

機械工学科 長坂 明彦

令和3年度 第1回 FD 研修会は以下により時間通り実施された。(敬称略)

- ・司会：酒井 美月 (男女共同参画推進室長), 記録：長坂 明彦
- ・講師紹介：酒井 美月

1. 研修会の日程等

日時 令和3年8月26日(木) 14時～15時30分

場所 web会議システムによるオンライン, リアルタイム講演, Microsoft Teams

講師 豊橋技術科学大学 教授/副学長(ダイバーシティ推進担当) 中野裕美先生

テーマ 男女共同参画推進について考えましょう

～必要性と取り組み事例紹介～

- ・まとめ：酒井 美月
 - ・質疑応答(4件)
- ① 大学と高専のアクションの違いについて。
 - ② 授業の関係で時間が取れないことについて。
 - ③ 男性は育児ができないことについて。
 - ④ 考え方が違うと見方も違う。研修, 川柳の取組の他について。

- ・参加者：(90名)
- ・アンケート：(59件)
(教員 (41名)・技術職員(9名)・事務職員(9名))

令和3年度 第1回 FD 研修会 アンケート集計

講演の内容について

2016年4月女性活躍推進法の施行以降、高専機構、大学、企業、自治体では、今まで以上に男女共同参画を積極的に推進してきました。その中で、工学分野は

最も遅れているのが現状です。工学分野での男女共同参画(ダイバーシティ)推進の必要性は？

その理由は、「組織を活性化し、イノベーションを推進するため」です。多様性・個性により多くの独創性、創造的思考や活動、新たな発見・発明が生まれ、それにより、工学分野でもダイバーシティ経営による画期的な研究開発が進んでいます。

今回、工学分野における男女共同参画推進の必要性をさらに深く理解するとともに、国内外での取り組み事例(グッドプラクティス)をご紹介します。この機会に、貴学の男女共同参画推進がますます進むことを祈念しております。

パワーポイントの中で詳しく紹介された。

2. アンケート (いずれかの選択肢の番号に○を付けて下さい.)

項目 1：あなたは学校が用意した FD 以外に教育技術向上のための活動をしていますか.

1：している (32 名) *下記から選んでください.

(講習会, セミナー参加, 文献調査, ディスカッション, その他 ())

(12 名) (12 名) (19 名) (6 名) (2 名)

2：していない (27 名)

項目 2：あなたの求めるテーマでしたか.

1：満足 (36 名)

2：やや満足 (22 名)

3：不満足 (1 名)

項目 3：今回の内容に興味をもてましたか.

1：大いにもてた (33 名)

2：ややもてた (25 名)

3：もてなかった (1 名)

項目 4：今後の教育活動の参考になりましたか.

1：大いになった (29 名)

2：ややなった (28 名)

3：ならなかった (1 名)

項目 5：開催時期は適当でしたか.

1：適当であった (58 名)

2：その他の時期がよい (1 名)

*下記に時期を記載ください.

()

- ・※別紙アンケート参照

項目 6：今後の FD 研修会取り上げてほしいテーマ，ご希望，ご意見などありましたら，
ご記入ください（自由記述）

- ・※別紙アンケート参照

2021年10月12日

令和3年度 男女共同参画推進に関する講演会
アンケートでのコメントおよび質問について

長野高専 男女共同参画推進室

標記の件に関して、大変興味深い内容でのご講演をいただきありがとうございます。講演に関し多くのコメントと、複数の質問がアンケートにて集まりました。自由記述のコメント内容をこちらに抜粋し、ご連絡申し上げます。また、講演内容だけでなく

先生に置かれましては大変ご多忙化と存じますが、可能な範囲で、講演内容に関する質問についてご回答いただければありがたいと思っております。下記のコメント一覧の中で、1-4は聴講者からの質問事項であると判断しています。すべてに回答となると先生のご負担も大きいかと存じます。可能な範囲で、参考となるサイト、資料のご案内などいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

記

● 受講者からの質問

1：男女共同参画への理解について、若年層から意識を高めるのが有効かと思っております。もし豊橋技術科学大学の大学院生向けに取り組まれている事例がありましたら教えていただければ幸いです。

2：昔から社会の中での性差などに興味があり、自分では偏見の少ない方だと思っておりますが、むしろそんな人が陥りやすい考え方があれば教えて頂きたいです。

3：外国の事情をもっと知りたい 賃金や物価の状況も

4：産学で比較すると、学のほうが今回のFDに関する意識のばらつきが多い気がする。この手の話はなかなか定量的に示されない。比較も含め、定量的に知りたい。

● 受講者からのコメント

5：男女共同参画について学ぶことができました。学校・職場・家庭など様々な環境で、気づいていない男女の性差(歪み)があるのだなと感じました。教育機関こそ男女共同参画の最先端であり、学生に手本を見せたいものです…

6：今回はあまり触れられていないが、学科間や専門分野間での「学生の男女比率」の

問題解決に向けて、機械分野や電気電子分野で本格的に取り組むべき時期に来ていると感じている。

7：素晴らしい講演でした。先生の堅実なご努力と、勇敢さに心打たれました。ありがとうございました。

8：外科部長の件で、思い込みからの脱却ができていないことがわかりました。

9：とても勉強になった講演でした。ありがとうございました。現在、私は3歳と0歳の子供がおりまして、朝30分、夕方30分の「保育のための休暇（生後1年に達しない子を養育）」を取得させていただいております。オムツ交換、泣いたら抱っこ、着替え等しております。技術職員では今まで本休暇を活用した方はいないとのことでしたが、上司、部署の先輩方の温かい理解があったからこそ、制度を活用できております。本校も、今後においても「出産・育児・介護等」の休暇を取得しやすい風土がさらに定着すればよいと考えます。よって、豊橋技術科学大学 中野先生の講演会のような研修を定期的に実施いただければと、教職員の認識が再度向上してよいのではないかと感じました。

10：ダイバーシティ推進の方が「男は頭がかたいから」などのような「決めつけ」の発言をたびたびされており、講演内容を素直に受け入れがたくも感じた。

11：男女共同参画社会というテーマは、こういった講演等が無いと意識の外になりがちであり、とても有意義なものでした。私は独り身なので子供を持つ身でもなければ子育ての辛さは想像し得ない点も多いですが、無意識に持っているであろう古い考え方や想像力を改めて、よりよい風潮を作っていくの一助になれば良いなと思いました。

12：思い込みの排除はとても大切ですね

13：多くの取り組みを紹介していただき、本校でも実施できそうなものも含めて大変参考になりました。ありがとうございました。

14：参考になりました。ありがとうございました。

15：講義の内容が具体的で、すぐに実践できそうな内容が多く有意義でした。

16：講師の先生と A 先生との質疑がとてもショックというか印象に残りました。とい

いますのも、話者はまったく悪気がないのにもかかわらず、それでも、女性を傷つけてしまうことになるからです。勉強になりました。

17：昔、女性だからという理由で就職試験を落とされたことを思い出しました。中小の零細企業ほど、男女格差を感じます。日本の社会に浸透していくにはまだまだ時間がかかる気がしました。

18：男性の家事参加について興味がありました。学校の業務と家庭とのバランスをしっかりととはからなければいけないことを知りました。

19：労働における男女格差の問題は授業で扱うこともあるので参考にはなった。各校や他国の取り組みについて具体的な話があり学ぶことができた。

20：毎回この手の講演は結婚出産することが当然であるという前提での話なのか。多様性という観点を踏まえると独身であることも選択肢として認めていただきたい。

21：コメント：講演の前日までに出席予定者から予め質問を受け付けてもらい、当日に回答をフィードバックしていただけると幸いです。今回の講演では、質疑応答の時間が最も私にとって刺激を受けた時間となりました。

男女共同参画推進室注：事前にメールで質問を受け付けていたのですが、案内が注目されなかったのか情報の伝達が不十分でした。今後の講演会では検討してまいります。

4-2. 令和3年度 第2回 FD 研修会

令和3年度第2回FD研修会実施報告

1. 日程他

主 催：教育改善委員会，教務委員会

日 時：令和3年9月7（火） 13:00～16:00

場 所：100番教室（併せてMicrosoft Teamsによる遠隔参加）

講 師：代々木ゼミナール福崎伍郎先生（英語モデル授業），

同 吉田 敦先生（授業アンケート分析）

題 目：モデル授業，授業アンケート分析

出席者：約40名（Teamsによる参加者を除く）

2. 概要

下記の話があり，今後の学生への教育を行う上で有用な内容であった。

- 1) 英語のモデル授業による授業の進め方等（福崎伍郎先生）
- 2) 授業アンケート分析データにより学生のニーズをつかみ教育効果を上げていくための授業のポイント等（吉田 敦先生）

3) その他

- ・本校の視察に来訪された高専機構 坪田知広 理事による高専の現在及び将来像についての講話が行われた。

※それぞれの講演，講話について会場から複数の質疑があり，それぞれ講師等から回答があった。

令和3年度第2回FD研修会（第2部）実施報告

1. 日程等

主 催：教育改善委員会，教務委員会

日 時：令和3年10月19日（火） 14:00～15:45

場 所：Microsoft Teams によるオンライン

出席者：55名

日 程：14:00～14:15 全体会議（説明：教務主事）

14:15～15:30 グループワーク（進行：教務委員等）

- ・各教員が録画した授業を順に視聴（1名5～10分間）
- ・授業で利用するスライド教材など授業内容のわかる資料等の説明も可
- ・意見交換
- ・11月の授業公開の参観推薦授業を各グループで2つ程度決定

2. 概 要

本研修に向けて、それぞれの教員による事前準備がよくされており、グループワークでの動画や教材の発表からも日頃の授業における工夫がうかがえるものが多くあった。また、多くのグループで当初予定していた時間を超えるほどの活発な議論がなされ、今後の授業改善にもつながるものと期待される。

なお、本研修のグループワークにおいて、本校で設定している授業公開期間に参観を推薦する授業を各グループから2つずつ選出した。これらについては授業公開までに周知し、教育改善に向けて授業参観を呼びかけることとしている。

4-3. 令和3年度 第3回 FD 研修会

令和3年度第3回FD研修会実施報告

1. 日程他

- 主 催：教育改善委員会，教務委員会
日 時：令和3年12月17（金） 15:00～16:30
場 所：100番教室（併せてMicrosoft Teamsによる遠隔参加）
講 師：長野上水内教育会事務局長（元長野市内公立学校校長）
田 川 昌 彦 氏
題 目：「これからの長野高専に期待すること」
出席者：約47名（Teamsによる参加者を含む）

2. 概要

・学生指導上の課題として長野県の15歳（高校生）の現状「①不登校 ②中退 ③自死 ④発達障がい」について説明した。

・予防的學生指導のすすめとして、子どもをどう理解するか、子どもの成長をどう支援するか（支援ニーズ）を「行動分析学」「心理的発達」「社会的発達、特別支援教育」の観点からを説明した。

・「学校適応感」を学校適応に対する子どもの認識と定義し、不登校予防には「学校適応感」の把握が重要であると説いた。

・「自尊感情」の程度が人間関係のバロメーターであり、周囲から受容されず、孤立・排斥されれば自尊感情が低くなり、結果的に自己制御を失い非社会的、反社会的行動に向かってしまう。学生を孤立させない「関係の束」（ソーシャルボンド）を築く事が重要である。

・LD：学習障がい（限局性学習症），AD／HD（注意欠如・多動症），自閉症スペクトラム（ASD）については生まれながらにして持っている障害であり，保護者の育て方のせいではない。

・学生に援助希求力「何をどのように困っているかを相談できる能力」を付けさせるため，学期あたり1回相談月間を設定するなど工夫してはどうか。

・これからの長野高専に期待することとして以下を上げた。

1 学力：言語力 論述力 英語4技能 データリテラシー 数学・プログラミング的思考

- 2 いじめと不登校：スクール・コミュニティ，社会（大人）への憧れと絆と居場所づくり
- 3 夢や未来を拓き 新たな社会を創造する力：探究学習 キャリア教育
- 4 悪しき平等主義から多様性を受容する公正主義へ
 - ・公正に個別最適化された学びを実現する多様な学習機会と場の提供
 - ・学びを pdca から aar へ「Anticipation（見通し，想定）→Action（行動，実践）→Reflection（振り返り）」
 - ・正解を求める学びから Trial & Error & Learn（挑戦 失敗 学び）へ
 - ディレンマと想定外との遭遇こそが真の学びへのスイッチ

※講演後，会場から複数の質疑があり，それぞれ講師等から回答があった。

*アンケート結果について

- ・別紙資料のとおり 36 件の回答があった。約 7 割の回答者から FD 以外の教育技術向上の活動をしていると回答を得た。
- ・今回のテーマについては 10 割が「満足」または「やや満足」しており，6 割弱が内容に興味を持てたとの回答を得た。
- ・この FD に参加して約 9 割の回答者から今後の教育活動の参考に「大いになった」または「ややなった」と回答を得た。開催時期も今回の時期が適当であるという回答が 8 割を超えていた。

4-4. 令和3年度 第4回 FD 研修会

令和3年度第4回FD研修会実施報告

1. 日程他

主 催：教育改善委員会

日 時：令和4年3月25日（金） 14:30～16:00

場 所：第2, 3セミナー室（併せてMicrosoft Teamsによる遠隔参加）

講 師：リサーチアドミニストレータ 浅沼 和志 氏

題 目：長野高専の産学連携

出席者：約54名（Teamsによる参加者44名含む）

2. 概要

下記の講演があり、今後の本校の産学連携を進める上で有用な内容であった。

1) 教育理念を実現するため教員はどんな教育を行えばよいか

→良質な教育と高度な研究が両方とも必要。

2) 地域の産業の振興、活性化、経済的向上を目指して

→本校の教育・研究面を高め、地域社会との交流を促進し、優秀な人材を供給、
地域産業を振興させることが本校の使命。

3) 学歴社会から社会人力社会へ

→今後は学歴よりも社会人力が影響力を持つ時代が来る。共同研究やインターン
シップなど地域連携を生かして教育・研究を高め、レベルを維持することが必要。

5. 令和4年度の活動に向けた各種委員会等への提言

令和3年度 各種委員会の活動状況の点検結果、学生との意見交換会、外部評価、卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査からの改善内容等の意見をもとに、各種委員会等への提言を以下に示す。

1. 教務委員会への提言

- (1) 機構本部による質保証 6 項目について、教員集団への周知が不足しているため、FD 研修会として設定することを提案する。
- (2) DX についての検討により各種申請の電子化が検討されたということであるが、コロナ禍のなかで在宅からの申請ができるようになることが期待される。(一部実施済み)
- (3) 本科と専攻科の学事暦の一本化については、その必要性も含めて再検討すべきではないか。
- (4) 校内学習塾は成績が振るわないものにとっては、必要なことなので積極的に進めてほしい。
- (5) 教育に関する実践的な FD 研修会が実施され、一定の効果があったと思われる。次年度もブラッシュアップした形で推進してほしい。
- (6) 授業公開への教員の参加者が、相変わらず多くなかったため、活性化をはかるために何らかの手段が必要である。後期の授業公開は、上記の FD 研修会とリンクさせての授業公開となったが、それでも教員参加者増加につながらなかった。

2. 学生支援委員会への提言

- (1) 交通マナーの向上に向けた取り組みについて、教員が多くの労力を当てて取り組んだにもかかわらず、近隣住民からの苦情が出ている。近隣住民との信頼構築のためにも、ボランティア学生や学生会役員やクラス風紀委員などと協働した更なる意識づけや呼びかけなど、教員の労力をあまり増やさずに実施する必要がある。
- (2) 学内でのゲームや麻雀について、麻雀設備の導入要望が出るなど、「原則禁止」の意識づけが低い。学内でのゲーム類の禁止について、徹底した指導が必要である。
- (3) コロナ感染拡大の生もあり昨年度からインターンシップ実施が縮小傾向にあったが、低学年生向けのキャリア形成取り組みのためにも、積極的な低学年学生のインターンシップ参加指導が必要である。

3. 寮務委員会への提言

- (1) 桜風寮のシステムの構築について、対応が必要と思われる。
- (2) 桜風寮の施設面の充実の準備、対応が必要と思われる。
- (3) 入寮許可の年度更新対応の充実が必要と思われる。
- (4) 違反点の担任および保護者とのさらなる情報共有が必要と思われる。

4. 専攻科運営委員会への提言

- (1) 年度初めに提示された重点項目5つにおいて、すべて精力的に働きかけられていた。入学者数の確保に関しての活動、学生に対して学士取得の支援、キャリア支援、および教育DXの充実は丁寧に進められていた。また信州大学との連携協議会、およびNAGANO スマートコミッション (NASC) 設立など、外部と連携した新たな体制も整いつつある。今後も外部との連携の拡大が見込まれると思われる。

5. 研究支援委員会

- (1) 研究支援委員会の重点項目に挙げてあるもので、以下の5件の資料が委員会に上がっていない。

これらは、研究協力産学連携係で資料は保管され、必要に応じて校長に報告が行われている。重点項目に挙げてある大切な内容であることから、次年度以降は、委員会資料に上げて議論していただき、教員集団への周知にも繋げていただきたい。

- ① 外部資金獲得に向けてRAによる個別指導の実施
- ② 弁理士による特許出願支援事業を7名の教員に対して実施
- ③ Gear5.0 関連における研究遂行において知財的な調査などを弁理士に依頼
- ④ KDDI との包括連携協定に基づく講習会などを学内に展開
- ⑤ 信州大学工学部および繊維学部との連携協定を締結

6. 広報委員会

- (1) 部門の活動が高専PR・入試倍率の維持・学生の確保につなげる方法の検討
- (2) 学科改組に伴う広報活動を本格的に実施

7. 教育支援センター

- (1) コロナ感染予防対策として、工場や端末室での対応への報告が必要で有ったと思われる。資料をみていると、検討と実施が行われている。
- (2) 安全性の向上については、具体的な、実施項目は並んでいるが、その結果どのように向上したのかが不明である。数値目標などにすることで見える化してほしい。
- (3) BYODの導入については、アンケートが実施されているので、その結果を分析し、次年度への取り組み計画を明示すべきであろう。
- (4) 会議議事録が公開されていないので、次年度は公開してほしい。

8. グローバル教育推進センター

- (1) コロナ禍からの脱出を念頭に置き、人的交流を含めた他教育機関との連携の強化し、グローバル化教育の質を向上させる。
- (2) 国際寮の活用を推進する。
- (3) 留学生の学習・生活支援に関して、チューターの役割や留学生の支援の方法について

ての事前教育を強化するとともに、留学生担任へチューターの支援状況の確認を依頼。

9. 男女共同参画推進室

- (1) website の充実を意識啓発の取り組みとして、情報更新の充実が必要である。
- (2) 女性教職員就業支援 インターンシップの実績が必要である。

10. 教育改善委員会

- (1) タイムリーな点検作業の実施
- (2) 実効性の高い点検システムへの改善

付録

付録1 学修単位における自学自習時間の確保に関する調査結果

令和4年3月30日
教育改善委員会

学修単位における自学自習時間の確保に関する調査結果

学修単位科目における自学自習時間確保手段について、学校としての状況把握を目的に以下のように科目担当教員に対して調査を実施した。

1. アンケート調査内容

調査期間：令和4年3月14日～3月25日

調査対象：学修単位科目担当教員

学修単位の教科をご担当の先生方へ

教育改善委員会

学修単位は、授業と自学自習を合わせて45時間を1単位とされています。ここでは、自学自習時間の担保について、ご担当の科目においてどのように工夫されているかを把握するため、調査を行います。実体に沿ってご回答をいただきますよう、ご協力をお願い申し上げます。

非常勤の方がご担当の場合には、窓口担当の方より本調査のURLをご案内ください。

本フォームでは3科目まで回答いただけます。4科目以上をご担当の方は、お手数ですが、回答を送信後に再度フォームを起動いただきご回答ください。

調査項目

1. 科目目の科目名を記載してください
2. どのような方法で自学自習時間を担保していますか？（複数回答可）
 - (1) 相応のレポートや課題
 - (2) 相応の製作や創作活動
 - (3) 相応の調査やフィールドワーク
3. 2において「その他」を選択された方は、その概要を教えてください。

2. 調査結果

82 科目および科目名無記名 1 件の回答について、図 1 のようである。8 割程度がレポートや課題を課すことで自学自習を促している。

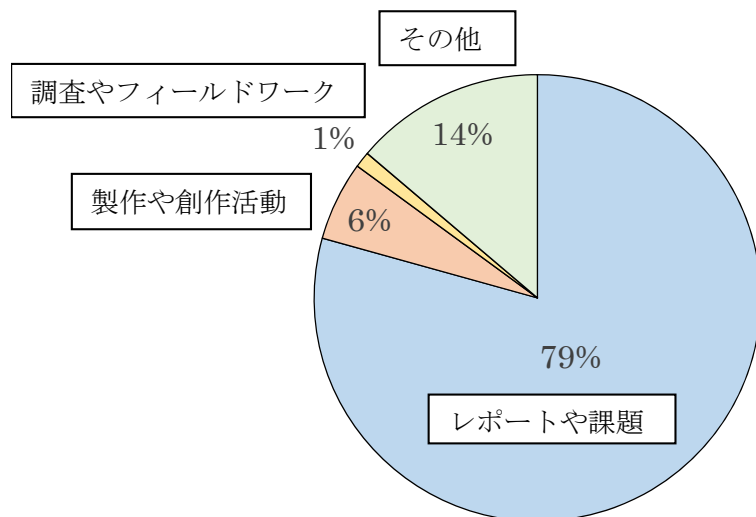


図 1 アンケート回答割合

2. 1 その他に記載された概要およびコメント

- (1) 毎回小テストを実施することで、それに対応するための学習を促している。
- (2) 一切していない。学生が自発的にするのは？大学ではそのようなことをフォローしているのですか？学生にはシラバス確認時に、自主学習するように伝えています
- (3) 成績ではテストで 100%の採点をする。テストに出題される系統の課題を出して、各自取り組む。
- (4) 構造力学に関する宿題を出している。公務員試験や大学受験を意識した問題を選んでいるので、受験生には好評である。
- (5) テスト対策として、計算例を配布し、各自解答をするように指導している。(課題ではないので、評価の対象とはしていない)。本計算例を理解していないと解けないような試験問題としているため、全員がしっかりと学習に取り組んでいるものと思われる。
- (6) 学生たちは、内容がある程度難しいと感じているようなので、授業の動画を撮っており、それを視聴して復習するようにしています。
- (7) 内容の理解、定着のためには相応の時間の問題演習が必要と考えられる科目です。
- (8) 毎回小テストを実施することで、それに対応するための学習を促している。
- (9) 授業はグループワーク中心だが、提出課題を課し、個人ごとにまとめさせている。

- (10) ほぼ隔週で小テスト（最終成績の 60%分）を実施し、その準備のため、問題を配布し、自習を促している。また、自習の実施状況を確認するため、自習の一部をプリントに解答させ、回収している。ただし、自習については、成績には反映していない。
- (11) 授業の最初に班ごとのテーマを設定し、各班にわかれて調査結果をパワーポイントで発表し、全員で討論する。
- (12) シラバスに自学自習の必要性を記載し、復習等で理解を深めるように指導している。
- (13) テスト対策として、計算例を配布し、各自解答をするように指導している。（課題ではないので、評価の対象とはしていない）。本計算例を理解していないと解けないような試験問題としているため、全員がしっかりと学習に取り組んでいるものと思われる。
- (14) 内容の理解、定着のためには相応の時間の問題演習が必要と考えられる科目です。

3. 今後に向けて

今回は教員側からの調査を実施し、課題等を利用して自学自習に結び付けているとお回答が多く見られた。今後は、学生側の実態に照らして効果的に実施されているかを把握し、より良い教育活動になるよう取り組んでいきたい。

令和3年度専攻科学習・教育目標の達成度評価の確認報告

専攻科運営委員会

令和3年度に修了する専攻科2年生を対象に、ループリック形式による学習・教育目標の達成度評価を実施した結果について報告する。

1. 実施期間および対象者

実施日時：令和4年2月25日（火）～3月14日（月）

対象者：生産環境システム専攻18名、電気情報システム専攻7名 計25名

（電気情報システム専攻で2名は連携教育プログラム生のため除外した）

調査方法：表1「ループリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表学生個人用」を

配布して、回答していただいた。

表1 ループリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表 学生個人用
生産環境システム・電気情報システム 専攻 学籍番号 氏名

学習・教育目標	合格			不合格
	優秀（すばらしい）	良（よい）	可（さらに努力を要する）	不可（不十分）
	基本的に期待されるレベルを超えている	ここまで到達することが望まれるレベル	期待した基礎レベルに達している	期待した基礎レベルに達しておらず不合格
A 世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討議し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。	世界の政治、経済、産業や文化を十分に理解しており、自分の考えを述べることができ、多面的に物事を考え行動できる	世界の政治、経済、産業や文化を十分に理解しており、多面的に物事を考え行動できる	世界の政治、経済、産業や文化を理解しており、多面的に物事を考え行動できる	世界の政治、経済、産業や文化を理解しておらず、多面的に物事を考え行動できない
B 自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。（技術者倫理）	自然環境や社会の問題に強い関心を持ち、技術者としての役割と責任について自らの考えを十分に述べることができる	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について自らの考えを述べるができる	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養がある	自然環境や社会の問題に関心がなく、技術者としての役割と責任について考えを述べるができない
C 機械、電気電子、情報または土木の工学分野（「基盤となる工学分野」）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識を十分に有し、応用力もあり、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識を十分に有しており、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識が不十分で、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できない
D 基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を十分に習得しており、必要とされる技術上の問題に活用や応用ができる	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を十分に習得しており、必要とされる技術上の問題に活用できる	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得しておらず、必要とされる技術上の問題に活用できない
E 科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し、主体的に解決することができる	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決することができる	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する過程を知っている	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力がない
F 具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討議できる能力を身につける。	具体的なテーマについて、複数の視点から論理的な記述と説明および討議ができる	具体的なテーマについて、ある視点を基に論理的な記述と説明および討議ができる	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討議ができる	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討議できない
G 習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に自ら積極的に、計画的に遂行できる	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に自ら積極的に遂行できる	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行できる	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行することができない。

2. 集計結果

図1に調査結果を示した。対象者25名中、24名から回答があった。調査数が少ないことから、専攻ごとに分けずに集計した。優秀（すばらしい）を4、良（よい）を3、可（さらに努力を要する）を2、不可（不十分）を1として集計した。

令和3年度の専攻科2年生は、学習・教育目標のA～Gの全てにおいて8割の学生が3（良・よい）以上の達成度であったと回答があった。特に、学習・教育目標Fについては、専攻科に進学したことによって報告書の作成やプレゼンテーションを行う機会が増えて、達成度が高かったと考えられる。その反面、学習・教育目標Dについては、若干2（可・さらに努力を要する）と回答する学生の割合が多かった。専門科目の学修に関しては、コロナ禍で登校禁止期間があった関係で校内での学修時間が減ったこともあり、力を入れることができなかつたと考えられる。

今後、更なる学習意欲と達成度向上のため、学生の学修する機会を増やすとともに、時代のニーズに合った科目内容の設定が望まれる。

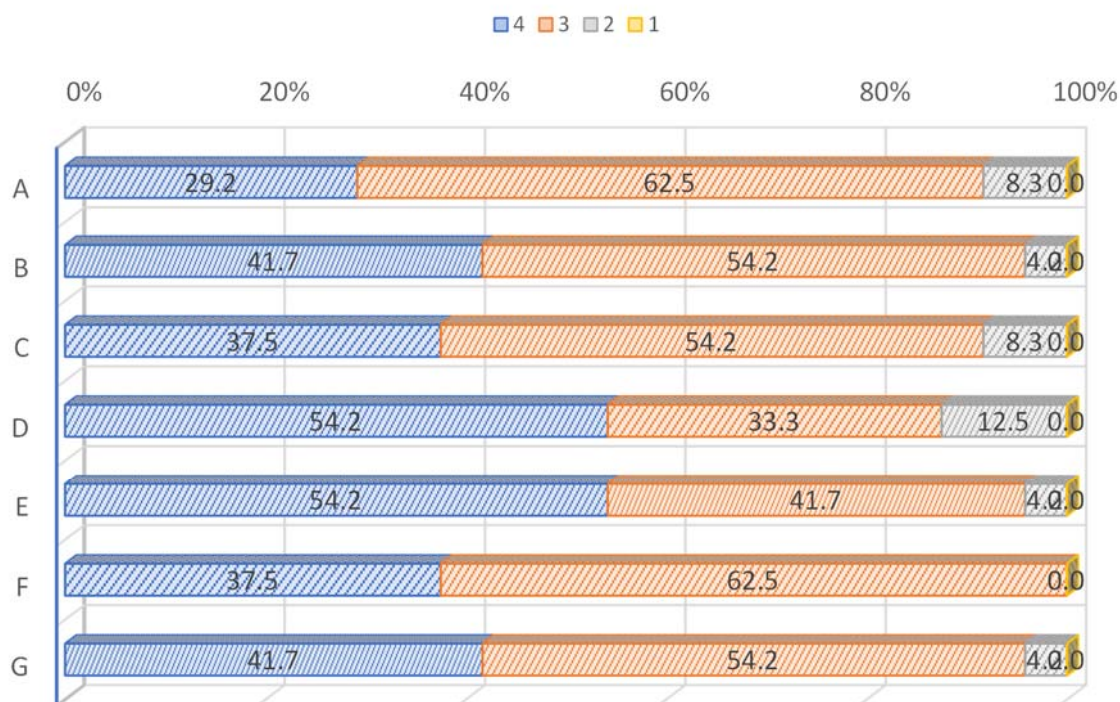


図1 ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価の集計結果（回答数：24名）

以上
（文責 渡辺誠一）

付録3 学習・教育目標の達成度自己評価調査票の集計結果

学習・教育目標の達成度自己評価調査票の集計結果

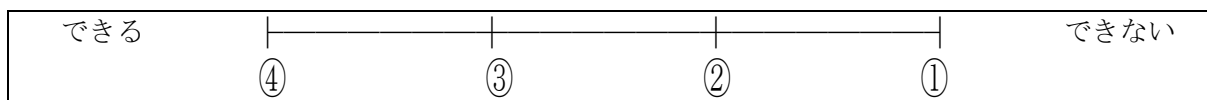
2022. 3. 11 機械工学科 北山

1. 設問

1.1 質問

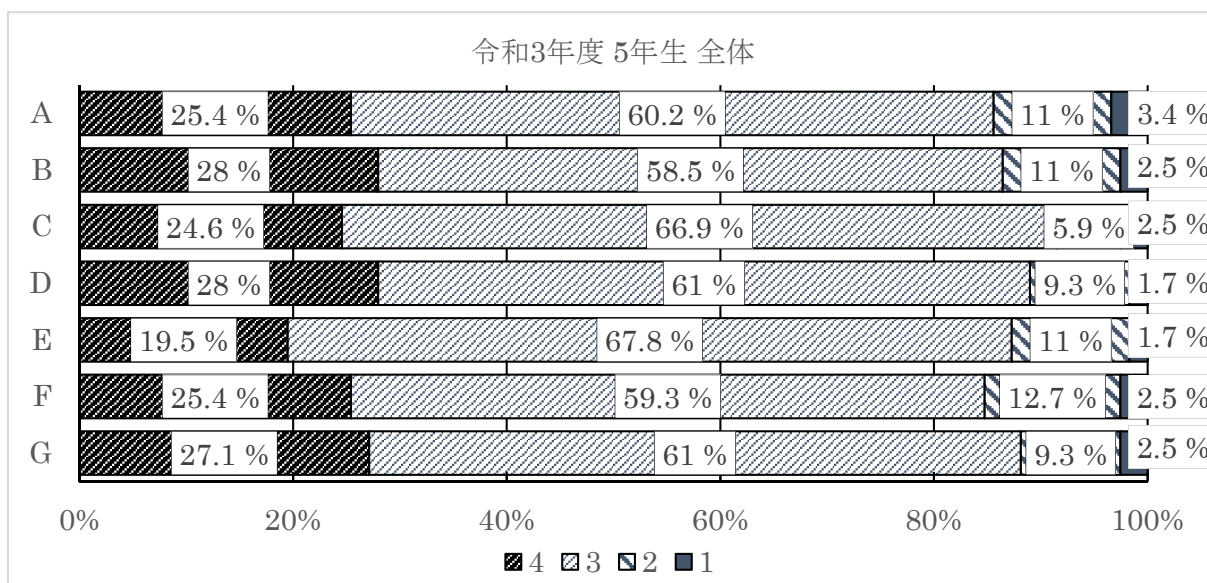
種類	学習・教育目標
A	世界の政治，経済，産業や文化を理解し，その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し，多面的に物事を考え，行動できますか？
B	自然環境や社会の問題に関心を持ち，技術者としての役割と責任について考えを述べることができますか？
C	機械，電気電子，情報または土木の工学分野に必要な数学，自然科学の知識を有し，情報技術に関する基礎知識を習得して活用できますか？
D	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学，技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できますか？
E	科学，技術および情報の知識，基盤となる工学分野で習得した知識，さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して，自ら問題を発見し解決できますか？
F	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論ができますか？
G	習得した工学分野の知識を基に，課題の達成に向けて自ら問題を発見し，それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行できますか？

1.2 選択肢

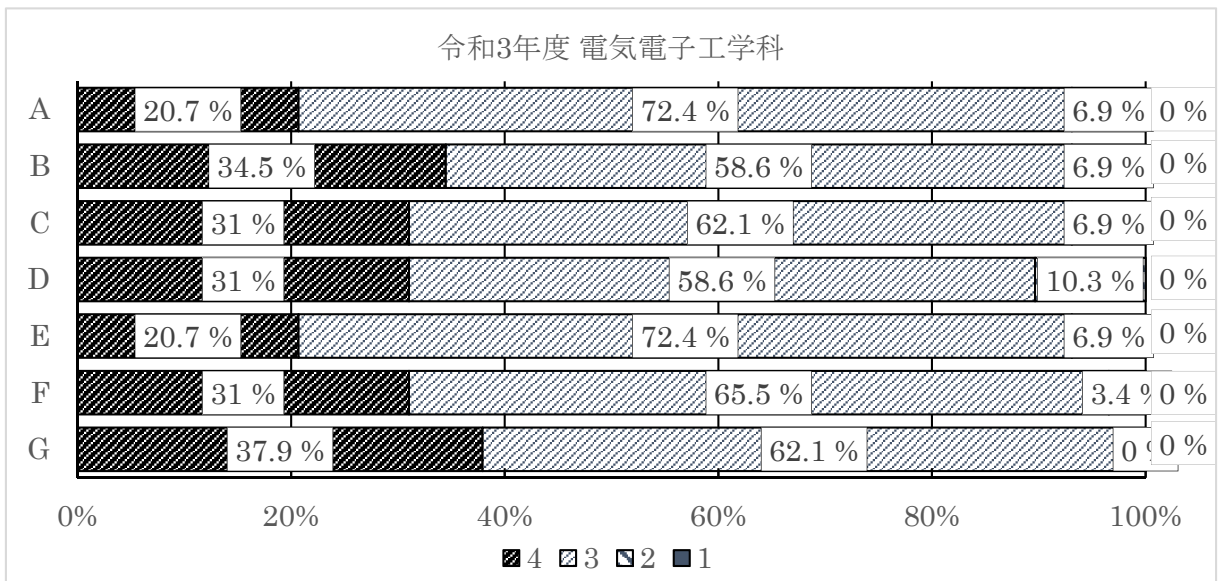
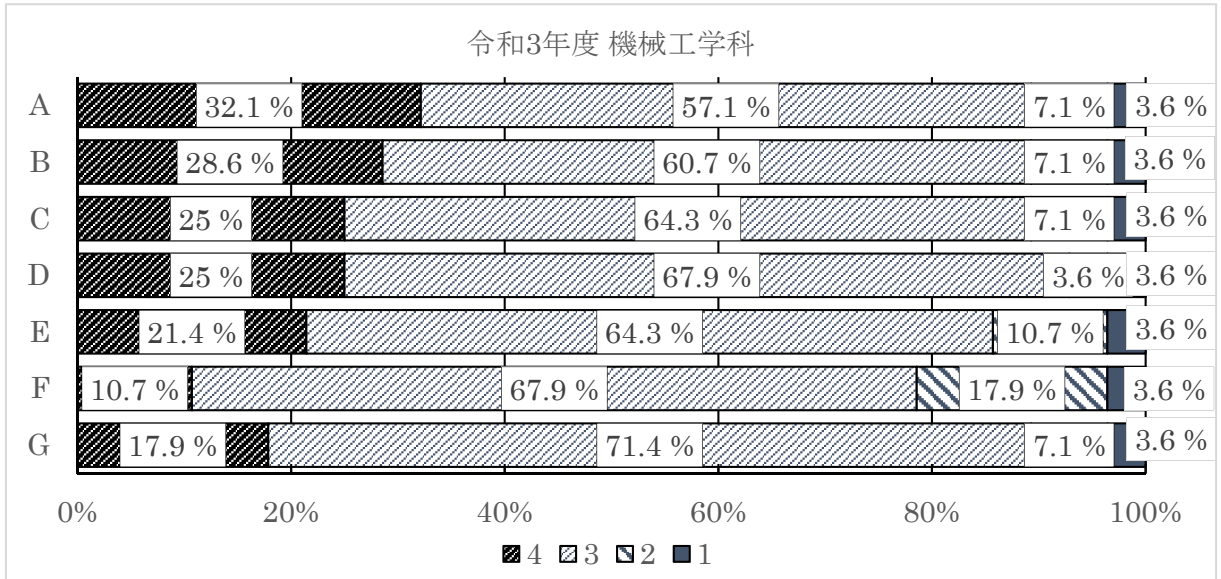


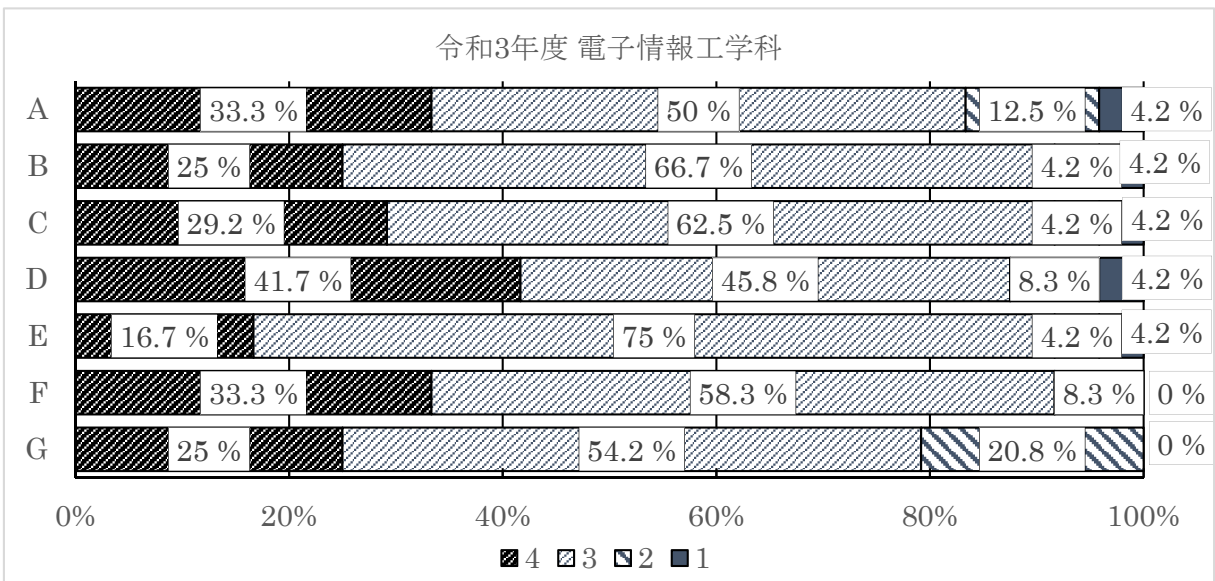
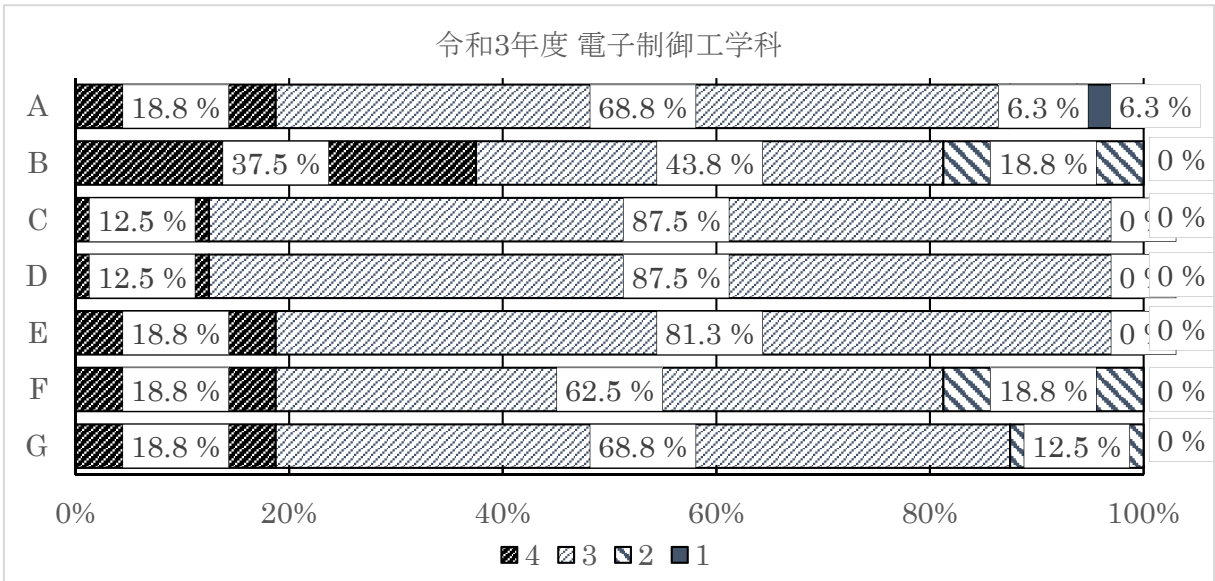
2. 全体の集計結果

M : 28名, E : 29名, S : 16名, J : 24名, C : 21名, 全体 : 118名

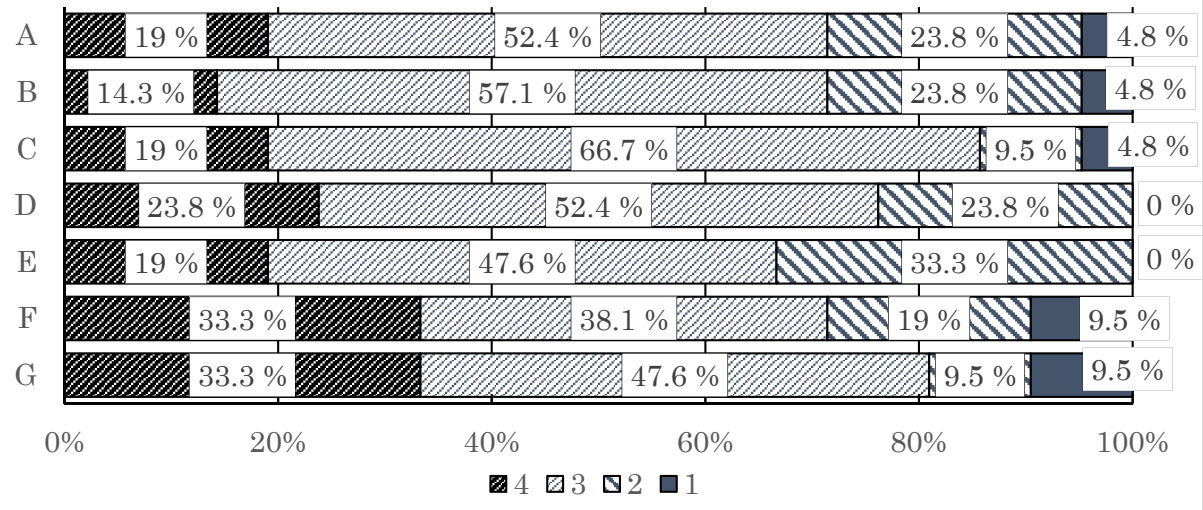


3. 学科ごとの集計結果





令和3年度 環境都市工学科



令和3年度

学生の満足度に関する アンケート調査実施結果

2022年3月29日

国立長野高専

教育改善委員会

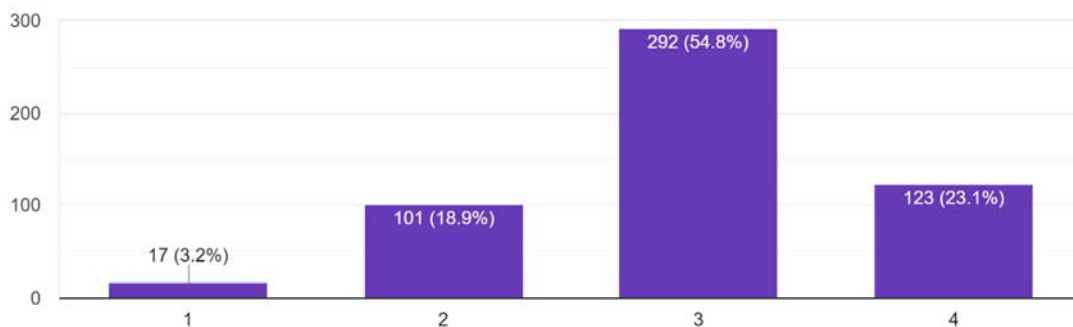
長野高専の満足度調査(2021年度)のまとめ

*全学生(本科及び専攻科計1070名)に対する回答数533件

1. 学習について

本年度、学習を十分に行えましたか？

533件の回答



※左から「行えなかった～行えた」の度数1～4

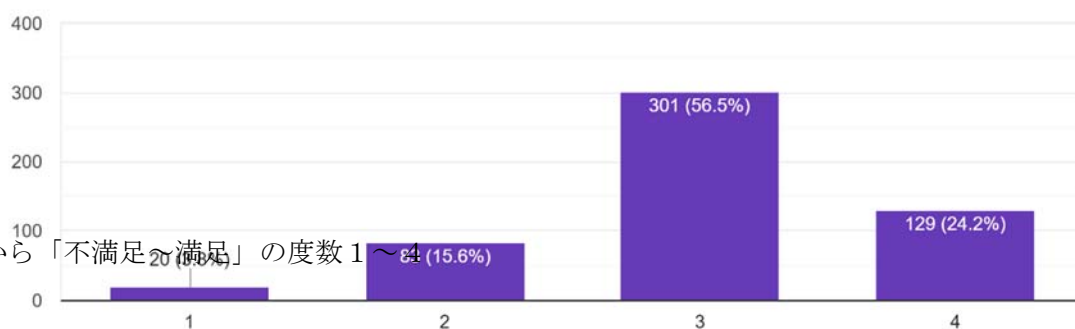
上記質問への主な回答記述

- ・リモートよりも対面授業の方が集中しやすい
- ・勉強の進むスピードが早いことを理由にあまり勉強(予習復習)しなかった。
- ・基礎の1年の内容を春休み中に復習したいです。
- ・コロナで休校になったりして、モチベーションが継続しなかった。
- ・中学校と勉強の仕方を変えることが上手く出来なかった
- ・進路のこともあり、後期中間まではとても頑張った。後期期末に関しても成績キープを目指して頑張って勉強していたが、いきなりリモートを言い渡されて絶望した。
- ・コツコツテスト勉強をするのではなく、直前になって慌ててやるが多かった。
- ・今年は新たな環境、新たな教科があったが自分なりに学習を行えたと思う。

2. ICT環境について

本校のICT環境について満足していますか？

533件の回答



※左から「不満足～満足」の度数1～4

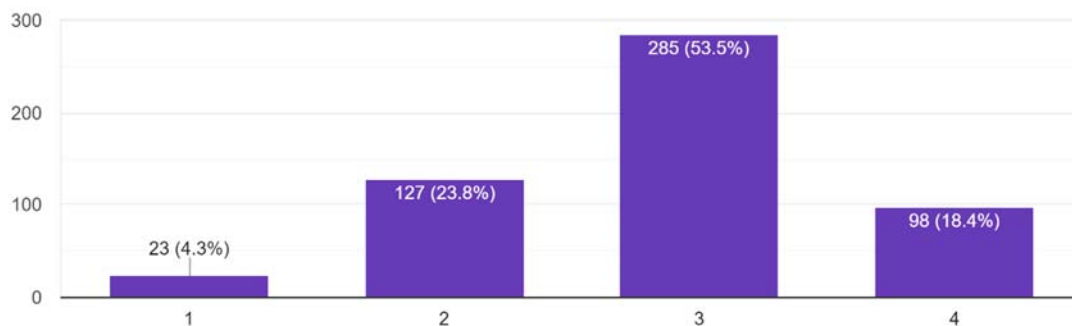
上記質問への主な回答記述

- ・私の所属していた卒研室の ICT 環境は極めて悪い。一つ一つの挙動が遅いのは当然、を 3DCAD ソフトで作業していると突如として動かなくなるなど、満足には程遠い。
- ・YouTube の限定公開機能をオンライン授業で使えれば良いと思っている。Teams や Google classroom よりも音質が良く画質も良い。
- ・ICT を活用する試みはいいが、トラブルの対応を行う体制が全く構築されていないと感じる。
- ・学校の WiFi が遅くて授業に使うファイルがダウンロード出来ないことがあった。
- ・校内 Wi-Fi に繋げる PC が一台だけだと何かと不便なので、一人二台などにしてほしい
- ・もう少し丁寧にパソコンについて教えてもらいたかった。
- ・タブレット端末も学校の無線ランに接続できるようにしてほしい
- ・ネットワークの通信状況が不安定。授業一コマなくなることもある
- ・Teams によるオンライン授業が途切れることがとても多い。また、画質も悪い
- ・教師のプロジェクターが暗いため見辛い

3. 自主的学習の支援について

自主的学習を支援する体制について満足していますか？

533 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数 1～4

上記質問への主な回答記述

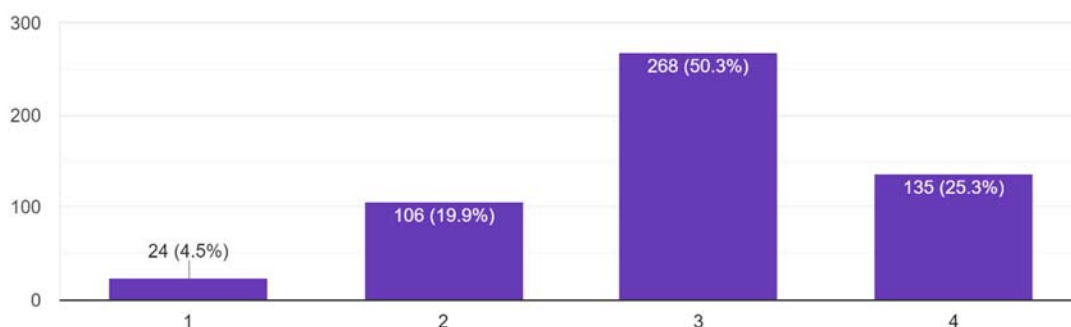
- ・構内にももう少し広い自主学習スペースがほしい
- ・先生が忙しそうであまり勉強のことを聞けなかった
- ・課題が特定の時期に固まる(特にテスト前後)ことが多く、毎日一定時間自主的学習をすることができない
- ・質問に積極的に応えてくれる先生が多いのでとてもありがたいが、一方で、非常に不誠

実な対応（授業時間が余っているのに、質問タイムを打ち切りにするなど）をする先生もいる。こういったことから、各教員間で学生の自主的学習を支援する心持ちにかなり差があると感じる。

- 関連するかわかりませんが、学校に仮眠スペースが欲しいです。コマが空いたときや、昼休みに眠ることで、学校での勉強の質を上げられると思います。
- アーカイブで授業をあげてあると言われたが、荒くて板書が見えないほか、音声も録音されてなかった。使えるものを上げてほしい。授業で使ったプリントやパワポデータだけでも助かる
- 期限内の提出ばかり重視するような課題ばかりであるように感じた。こういった課題の設定が自主学習の阻害をしている。
- 電気工事士の実技練習の環境がそろっているのはとてもありがたかった
- 感染拡大時における図書館等自宅外自主学習スペースの確保
- 授業の録画をしてくれない先生がいた。画面が固まったり音声途切れたりするので授業の録画を徹底して欲しい。
- 学校で残って勉強することが多いのですが、暖房が17時以降着かなくなるのが気になります。
- 図書館をもっと充実させてほしい。授業で教員が参考図書として紹介したが学校にはない場合などもあったため、そういった本は積極的に図書館に置いてほしい。
- 感染病蔓延防止対策で図書館が時短や閉鎖される理由がわからない。元から会話が発生しない場所であり、感染リスクは少ないと思われるが、なぜ閉鎖されるのか。

4. 生活や経済面に係わる指導について

生活や経済面に係わる指導に満足していますか？
533件の回答



※左から「不満足～満足」の度数1～4

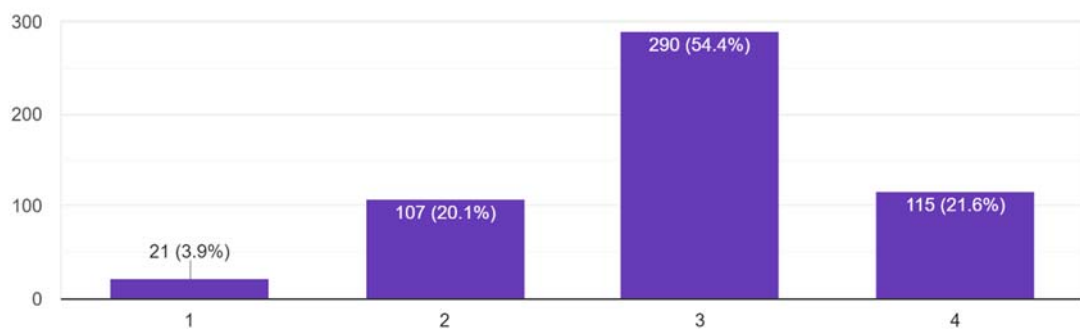
上記質問への主な回答記述

- ・寮の加点システムが不必要なところまで及んでいる。特に勉強してないだけで加点するのはそろそろやめたほうがいいと思います。
- ・生活や経済面での指導は少ないが、問題なく生活できている。
- ・寮生活の規則が形だけの規則にならないようにしていただきたいです。
- ・どの家庭も平等に学習できるよう、様々な対応をしてくださっていて素晴らしいと感じています。
- ・男子寮に冷蔵庫がない。理由を教えて欲しいです。
- ・コロナ禍における生活の指導がない気がする。
- ・退寮の際にゴミを捨てられないのはすごく悲しかった。

5. キャリア教育の体制について

キャリア教育の体制について満足していますか？

533 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数 1～4

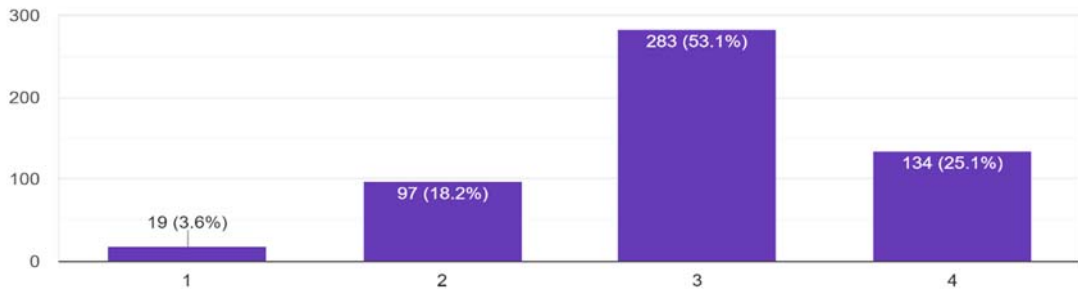
上記質問への主な回答記述

- ・現在 4 年生で進路講演会を受けましたが、1 月にあるのは時期が遅すぎると思います。インターンシップが終わった後くらいに前倒した方がいいと思います。
- ・就職に対する支援はあると思うが進学に対する支援が少ない
- ・進路支援室の就職活動報告書などをオンラインで見れるようにすると便利だと思う(現在のように登校禁止になると困ると思うので)
- ・低学年からインターンシップに参加できて、とても良い経験になりました
- ・様々な講演会を実施してくださっていて、自分の進路を真剣に考えるきっかけとすることができました。
- ・OB、OG の講演会や企業見学などは将来に繋がるので良いなと思いました。
- ・先輩方の研究発表が終わった後、いろいろお話を聞いたのがよかったのでまたやってください

- ・実務訓練は原則、学校とコネクションがある企業でしか単位認定されない、という仕組みにはあまり満足できない。

6. 不安に対する相談や助言などを行う体制について

さまざまな不安に対する相談や助言などを行う体制について満足していますか？
533件の回答



※左から「不満足～満足」の度数1～4

上記質問への主な回答記述

- ・先生に何度も相談に乗っていただいた
- ・あまり気軽に相談できる場所が無いように感じる
- ・相談したことがない
- ・先生が常に忙しそうで相談しにくいです
- ・コロナ禍なかったら、どの先生でも話し聞いてくれると思うので、大丈夫です。フレンドリーな関係がとても良いと思います。
- ・相談できるととても楽になるのでいいのですが、不安を感じたときに相談するのが少しハードルが高いかと思いました。
- ・部活や進学のことですらいろいろとアドバイスをいただけてありがたかったです。

7. その他（自由記述）

- ・保護者への配慮をしっかりしてほしい。
- ・ずっと同じような教え方でやってきただろうが、時代も段々と変わっていくので教え方を見直した方が良くと思う。
- ・先生の負担を減らして、誰でも自由に受けられるセミナー（先生の得意分野についてなど）を多く開催すると学生の能力が上がると思います
- ・忙しすぎて編入試験の勉強ができない。
- ・今まで5年でやってた教科を4年に持ってきてるから忙しすぎた。

- ・課題の提出や資料の共有は、Gmail と Teams のみにしてください。
- ・約 3 カ月半にも及ぶ学外実習の制度は大変良い経験になったが、学校側からの実習にかかる金銭的な面などで支援があってもよいと思った
- ・冬の教室が超絶寒かったです。
- ・今回テストが Web で行うことになったと思うんですが、やはり、テストは分散登校などしてでも、学校で行うべきだと思います。
- ・コロナウイルスの対応で次の日から突然休校にするなどは仕方ないとしても、大雨などの通生が登校困難な場合に通常通り授業を行うのが良くないと思う。せっかくオンライン授業の環境を整えているのだから、もっと活用すべきでは。
- ・校内放送がスピーカーが少ないせいでもはや教室内はなにも聞こえないこと。
- ・物理や数学の授業やテストにおいて、式展開と公式のみ教えるような現状に意味を感じなかった。グラフでの扱いや、文章題の解決等を行わなければ、実用できる技術に結びつかないように感じる。
- ・公式への代入や、無意味な解法の暗記だけで評価されるようなテストに意味を感じない。
- ・同じ学科の他の学年の人とも一緒に授業してみたいです。(先輩とかにいろいろ教えてもらいながらと)
- ・学生が相談できる制度があるんだと思んですけど、相談しにくいです。

8. 学生からの主な要望

- ・校内 Wi-Fi に繋げる PC が一台だけだと何かと不便なので、一人二台などにしてほしい
- ・構内にももう少し広い自主学習スペースがほしい
- ・画面が固まったり音声途切れたりする時もあるので授業の録画を徹底して欲しい。
- ・図書館をもっと充実させてほしい。授業で教員が参考図書として紹介したが学校にはない場合などもあったため、そういった本は積極的に図書館に置いてほしい。
- ・寮生活の規則が形だけの規則にならないようにしていただきたいです。
- ・現在 4 年生で進路講演会を受けましたが、1 月にあるのは時期が遅すぎると思います。インターンシップが終わった後くらいに前倒した方がいいと思います。
- ・OB. OG の講演会や企業見学などは将来に繋がるので良いなと思いました。
- ・相談できるととても楽になるのでいいのですが、不安を感じたときに相談するのが少しハードルが高いかなと思いました。
- ・課題の提出や資料の共有は、Gmail と Teams のみにしてください。

第 18 回長野工業高等専門学校参与会議事概要

日 時 令和 4 年 2 月 8 日 (火) 10:00~12:00

場 所 長野工業高等専門学校 第一会議室

出席者 (*リモート参加)

参与：*天野良彦参与(会長)、*丸山陽一参与、*庄村栄治参与、*池田明参与、*小根山克雄参与、*水本正俊参与、小河原敏男参与(副会長)、*倉沢弘二参与、*柳見沢宏参与

本校：土居信教(校長)、濱口直樹(副校長(教務主事))、児玉英樹(副校長(学生主事))、松下英次(副校長(寮務主事))、渡辺誠一(副校長(専攻科長))、鈴木宏(副校長(総務主事))/第三者評価対応委員会委員長)、小野伸幸(副校長(研究主事))、亀井耕治(副校長(事務部長)) *岡田学(機械工学科長/技術教育センター長)、*春日貴志(電気電子工学科長)、*中山英俊(電子制御工学科長)、*西村治(電子情報工学科長)、*西川嘉雄(環境都市工学科長)、*富永和元(一般科学科長)、*板屋智之(学生相談室長)、*酒井美月(男女共同参画推進室長)、*渡辺昌俊(グローバル教育推進センター長)

< 陪席 > *楡井雅巳(教育改善委員会委員長)、森田智士(総務課長)、富岡裕(学生課長)、*三尾敦(技術支援部技術長)、常川陽一(総務課課長補佐(総務担当))、金井隆英(総務課課長補佐(財務担当))、*錦山満(学生課課長補佐)、白木順子(総務課総務係長)

1. 開会 総務課長
2. 会長・副会長紹介 総務課長
3. 自己紹介(各参与・長野高専出席者)
4. 校長あいさつ

本年度は、安心・安全第一に加え、学生第一、学生ファースト、この2つを基本方針に掲げて運営をしている。

まず新型コロナウイルスについて、コロナに対しては感染予防を徹底して、できる限り通常どおりの学校運営を心掛けてきたが、この正月明け、学内から感染者が出たため、1日、登校を禁止し、2日目からはリモート授業に切り替えた。学年末試験も大半はリモートで行った。また、部活動などの課外活動も禁止ということで、学生には大変迷惑を掛けていると思っている。

先週金曜日の終業式において、リモート授業、試験によって、通常と異なることで、学習面に不安が残る学生もいる。また、担任と面接による相談ができないことによる不安もあるということで、最大限の配慮を学生に寄り添ってやります、ということをお伝えした。

3月18日に卒業式を予定しているが、これは感染予防を徹底し、何としても挙行したいと思っている。

明るい話題では、去年の10月に、工嶺祭（文化祭）を行った。残念ながら学外の参加は見合わせたが、東京2020パラリンピックに出場した、本校の卒業生である藤澤潔選手に来ていただき、体育館でバスケのシュートのデモンストレーションをやってもらい、非常に盛り上がった。

もう一つは、11月に国技館で行われた高専ロボコン全国大会で、7年連続出場し特別賞を受賞した。来年度はロボコン大賞を狙いたいと思っている。

そして、12月に、天野先生と小河原同窓会長にも御出席いただいたが、国際寮の完成式を行った。68部屋ある寮で、国際交流、これは本校だけではなくて、信州大学、または長野市のいろいろな学校なども利用いただける場にとっている。

本日は10年近く議論をしてきた学科改組が来年度からということで、学科改組のことと、松本と長野高専を結ぶスクールバス、コロナの職域接種、これらの議題について、御議論いただきたい。

5. 配付資料確認

6. 議事

天野会長から、本日のテーマである、「長野高専の現状と課題」について、各参与の方々から忌憚のない意見等を伺いたいとのあいさつがあった。

以下、参与会設置要項第7条第1項の規定により天野会長が議長となり、議事が進行された。

テーマ：長野高専の現状と課題について

(1) 学科改組の取組み

濱口副校長及び渡辺副校長から、資料No.1に基づき、学科改組の取組みについて説明があった。その後、質疑応答が行われた。

天野会長：（工学科の）括りに入って、2年から分かれると思うが、その人数というのはあらかじめ厳密に人数が設定されているのか。配属時に科内の厳密な人数は守るというイメージか。

濱口副校長：情報エレクトロニクス系80名、機械ロボティクス系80名、都市デザイン系40名である。

土居校長：実際は入学時も定員ぴったりというわけではなく、また留学生の受入れもある。

80、80、40という定員はあるが、成績、希望等を考慮して若干の調整はある。おおむね80、80、40としたいと考えている。

天野会長：一旦分けた後に転科、コースが変わるといようなこともあり得るのか。

土居校長：現在も3年、4年に転科という制度がある。それと同様な制度を作る。若干名、移りたいという時は、それが可能な制度にしている。

天野会長：今回専攻も設けられる予定なので、そういう仕切りがかなり低くなって、多様

な人材育成ができる、大変いいことであると思う。

小根山参与：リベラルアーツ教育院は校舎内にある施設というか、教育機関なのか。それとも外部に依頼したりするものなのか。

土居校長：リベラルアーツ教育院とは、学内の組織であって、現在は一般科と言っている。これは教員の定員を増やして強化しようということで、学科の名前もリベラルアーツ教育院と変えたものである。

小根山参与：リベラルアーツ教育院の説明の中で、特に長野愛という非常に新鮮な項目があるが、この出身校を見ると圧倒的に長野県が多く、県外が比率からすると少ないが、県内の出身者でも長野についてそんなに多くを、意外と知らないというようなこともある。それから、特に県外から来た学生には、ぜひこのところでしたら長野県を理解していただいた上で学生生活を送れば非常に良いと思う。もう一つは、グローバル化について、その中で海外研修というのは2年生が一応、多分全員と思うが、そのほかに高専としての留学制度はあるのか。

土居校長：最初の長野愛というか長野学というのは、これは、長野は大変教育熱心でいい文化もある、特にずくませという言葉がある。それは、元気出せよと、頑張っでやろうよというものを育む。人間力、やはり人生、長丁場であるので、付け焼き刃的な専門技術だけを身につけても刃がぼろぼろになってしまうので、心も体も成長するときにしっかり生きる力を身につけましようということで、いろいろな長野のすばらしい文化を学ぶ。長野高専は県内就職が約40%で、これは全国の高専の中では相当高いほうであるが、でも、まだ60%は県外に出ている、何で県外に行くかという、県内企業を知らない場合が多いということで、こういう長野学を通じて県内をよく知ってもらうこと、それと人間力をつけるという意味でこれをやろうとするものである。

2つ目の海外研修制度について、留学は長野高専独自では持っていないが、トビタテ！ 留学JAPAN、これは大学とか高専において、そのような制度もあり、高専機構としても積極的に進めており、送り出すだけじゃなく、短期間または数か月程度の留学生の受入れ、それと、3年時から大体各クラス、各学科1名程度の留学生は受け入れ、海外に留学に行ったり留学生の受入れをしたりということで、国際寮もできたので、さらにこれを加速させたいと思っている。

小根山参与：学科の勉強だけでなく、こういうグローバル化を身につけることは視野の広い、あるいは多様性に富んだ学生が育つと思うので、ぜひリベラルアーツを全学科と同じぐらいに力を入れていただくと良いと思った。

土居校長：コロナで海外からの留学生の受入れとか、また日本から海外へ留学というのは、困難な時代になったが、ピンチをチャンスにとということで、授業などがリモートで、できるようになり、海外もリモート交流ということで、このコロナ禍において、かえって海外との距離が縮まったところもあるので、ウイズコロナ、アフターコロナのこのリモートというのは、並行して利用し、グローバル化教育を強化

していきたいと思っている。

天野会長：これから多分、地域を知ることと、逆に世界を知ること、両方の人材というのが必要になってくると思う。

池田参与：卒業後の進路について、進学が45.9%、県外50%、県内17%であるが、今回の改組によるこの比率の数値目標があれば、お聞かせ願いたい。

土居校長：県内就職は、就職する中で、今40%程度であるが、50%を目標にしている。それは先ほどのリベラルアーツ教育、ここで長野についてよく知ろうと。そういうことを知れば、県内にはたくさんすばらしい企業があるので、これを、長野学を深めることによって50%の目標は十分に達成できるのではないかと。5年後を楽しみにしていただければと思っている。

(2) 自己点検評価項目とその評価方法

鈴木副校長から、資料No.2に基づき、自己点検評価項目とその評価方法について説明があった。その後、質疑応答が行われた。

天野会長：58項目ということで、大変多岐にわたるので、これで評価するのはすごく大変というイメージを持っているが、そこに関して評価できる資料をあらかじめ準備いただいて、それを見て我々が評価するようなイメージでよろしいか。

鈴木副校長：そのように考えている。先ほど説明のように項目に関して、根拠資料に基づいて本校の現状を述べ、根拠資料についても提示していきたいと思う。評価項目も多いが、これはまだ始めたばかりなので、皆さんの御意見を聞きしながら改善していきたい。

柳見沢参与：これだけのことを高専の実態を把握し切れないうちで評価するというのは非常に難しい。情報をいただきながら、実態が分かるような形の中で評価していかないと、何となくの感じでやらざるを得ないところが出てきてしまうという気がする。

鈴木副校長：参与会において説明等をしたうえで、それを評価していただくことになる。項目が多岐にわたり難しいと思うので、随時改善していきたい。

水本参与：この評価はそれぞれ参与が評価して、参与としての統一した評価を1つ出すということになるのか。

鈴木副校長：今考えているのは個々の参与の方々の評価をしていただき、学校側でまとめたと思っている。

水本参与：評価がばらばらになることもあるが、それは統一しないということか。

鈴木副校長：個々の御意見として、改善していきたいと考えている。

池田参与：我々外部にここまで細かく評価を求められると、結局左に倣えになる懸念がある。総合的に理解している人たちの中でやった方がいいのではないかとと思うが。

鈴木副校長：内部のところでも評価はやる。機関別認定評価ではよく知っている方々で評価される。それとは別に参与の方々、一般的な地域の方、企業の方に御意見もお聞きするという事なので、あまり難しく考えなくやっていただければと思って

いる。

天野会長：高専は、学位授与機構等の厳しい評価は受けているので、我々は外部の立場で気づいた点を評価していただければよいかと思う。全般にわたって評価するのは、おっしゃるとおり非常に難しいとは思う。

(3) スクールバスの運用と職域接種

亀井副校長から、資料No.3に基づき、スクールバスの運用と職域接種について説明があった。その後、質疑応答が行われた。

天野会長：スクールバスについては大変意欲的な案だと思う。バスについては、専用のバスを用意したということか。委託ではないのか。

亀井副校長：運行はバス会社に委託してという形である。また、バス本体も所有ではない。

(4) 質疑応答・意見交換

天野会長から、これまでの説明等に対する質疑並びに総括的な意見が求められ、以下のとおり意見交換が行われた。

小河原参与：学科改組の取組は、高専の歴史の中でも非常に大きな節目になることだと思っている。そんな中で、教職員の皆様、従前の学科と新しい学科と混在するので、非常に御苦労もあると思うが、学生の皆さんの質の向上等に御尽力いただきたい。また、この学科改組の取組、1つの目的とすれば優秀な学生を育てるということもあるだろうが、応募者数の増加というのもあると思う。特徴だった教育システムを揃えた中で、優秀な学生を集めるということのも今後の高専の発展には必要なことだと思う。そんな中でこのスクールバスの導入効果について、資料によると、昨年度の入試者数が270名、今年度の志願者数278名ということで、松本分が約16名増えているが、総数では278ということは、他が減ってしまっているという事だと思う。

そんな中で、こういった新しい取組を始めた長野高専の内容について、中学校にアピールはされていると思うが、もうちょっとアピールをしていただいて学生を多く集め、倍率が上がる、そんなことを目指していただければいいと思う。

土居校長：志願者数は、昨年度は一昨年度から比べると大分減った。やはりこれはコロナの影響で学校説明会が対面型式で開くことができず、高専を実際に訪れて見てもらうことができなかったというのが大きな原因。これは長野高専だけではなく、全国の高専、昨年度は志願者数が大きく減少した。

今年度は志願者数が戻っている。長野高専で見ると、若干8名、志願者数は増えているが、まだまだ十分でない。昨年度も夏場、コロナの感染者が増えて学校に来てもらうことができなかったというのは大きいですが、少子化の影響もある。

特に女子学生の比率が長野高専は低い。全体で入学者の中の18%ぐらいと承知しているが、高専の全国平均で見ると20数%で、4ポイントぐらい少ない。全国では30%、女子学生比率を目指しており、やはり女子学生に志願してもらう、これが最大の課題だと思っている。

このスクールバスだけでそれが解決するわけではないが、これもその1つということで、女子学生の比率をとにかく高めたい。女子学生が多く志願すると男子学生も多く志願するという傾向は分かっているの、何とかそれをしてほしい。スクールバスについて言うと、取りあえず来年度からスモールスタートで、朝夕1便ずつ、松本駅との往復だが、夕方は、部活動をするので5時半に帰るとするのはちょっと早い。部活動をしたなら7時ぐらいに帰りたいという学生もいると思っており、複数便にしたい。

それともう一つは、佐久、上田の路線も開拓したい。複数台のスクールバスが走ると長野高専の知名度も上がり、広く認知され、多くの中学生の生徒さんが志願してくれるようになるのではないのかと思っている。

問題は利用料金で、年36万、月割にすると月3万円。JR松本からの定期券になると、今、月当たり2万円を切る。利用者数によるが、できるだけ2万円に近づきたい。少しは長野高専基金からも補助を出して、今の通学定期と変わらない程度まで持っていければということで、今、調整中である。まだ希望者が何人になるか分からないが、学校説明会等を通じた手応えとしてはかなりあるので、何とかうまく導入を図っていきたく考えている。

柳見沢参与：私は、長野スポーツコミュニティクラブ東北というスポーツで地域をつなげる活動を東北中学校中心に活動している。

その中で私が感じている高専のイメージは、学生のスキルが非常に高いということである。いろいろな活動、専門的分野に踏み込んで学生たちが学んでいるということを感じているが、そういう学生のスキルの高さを地域、地元へ還元していくというようなことをやるのが高専のイメージをレベルアップするだろうということを感じている。

それから、もう一つは寮生がいるが、400名近い寮生があの高専のところで寝泊まりしながらいるわけで、その寮生が何か地域貢献できるような機会をつくっていくチャンスじゃないかなということを私なりに思っている。グローバル化ということで、海外に向けての視点ということは当然必要であるが、先ほどの長野愛ではなけれども、地元へ還元し、地元から高専の魅力を高めるといことが大事なんじゃないかと私は感じてきた。

土居校長：地域貢献というのは、長野高専の重点課題、最重点課題の1つと考えている。

地域貢献の1つとしてプログラミング教育、すぐそばに市立長野中学校・高校があるが、そういうところに私どものプログラミングを教えることによって、学生、教員もまたレベルアップする。中学校、小学校等、今も出前授業でやっているが、これをもっと活性化してやっていきたいと思っている。

それと、近くの東北中学とは学校のいろいろな施設、例えば体育館、グラウンドを共同利用して、場合によっては、スポーツに長けた方のコーチというような御支援もいただきながら、地域と触れ合い、地域とのスポーツを通じた交流を深め

たいと数年前から思っていたが、コロナの関係で外部の人の利用という制限がこの2年間は続いていたので、できなかった。コロナ明けにはすぐできるよう地域との関係強化、連携強化というものは最重点課題として取り組む予定である。

丸山参与：御承知のように、義務教育でもGIGAスクールが決まり、1人1台パソコンと端末と渡していろいろ運用している最中であるが、そういった中でプログラミングとか、今、みんな一生懸命取り組んでいる。これからはそういうことを通じてITとかプログラミングというものに興味を持つ子が多分増えてくると思っ

ているし、我々も取り組んでいかなければならないと思っ

ている。高専で起業する生徒はいらっしゃらないかなと思っ

ていて、地域の若者は大変それをビジネスとして運用したいと考える方がいると思うが、そういった学生に対する支援、非常に大事だと思うし、最近メタバースとかAIの世界、これからとても発展していくと思うが、そういった最先端に触れられる機会があればよいと思っ

た。土居校長：GIGAスクール、メタバースとその最先端、そういう教育というのは、これは本校でもしていかなきゃ駄目。今度の改組で、データサイエンス等の科目は専門にかかわらず全員が学ぶとしているが、この最先端の教育ということに関しては、これはリカレント教育、卒業された社会人の皆さんに対する教育なども含めて最先端の教育をする必要がある。それについては、長野高専の教員だけでは私は十分ではないと思っ

ている。そこで連携協定を結んだ信州大学の工学部、繊維学部と一緒にSTEAM教育としてやらせていただきたいと思っ

ている。もう一つは、来年度から国立高専、全国で51あるが、51の高専で単位互換が自由にできるようになる制度が始まる。一高専当たり教員は約70名。51あると3,500名。3,500名もいれば最先端の教育ができる教員もいるに違いないということで、国立高専のスケールメリットを活かす、そういう教育というのも中学生、また社会人を含めて、総力を挙げてやっていけるのではないかと今、我々真剣に取り組んでいるところである。

池田参与：最終的には、長野高専を卒業した人たちがしっかりとこの学生時代に学んだことが社会で活かせるかどうかというのが一番重要なこと。そういう意味で卒業した人たちの就職した3年ぐらいの間の人たちの声をきちっとつかみ取って、それをこの改組の中に入れて込んでいただいてPDCAを回していくというようなことをぜひお願いしたいと思っ

ている。小根山参与：学科の改組、スクールバスもいろいろこれからに向けて改革をしようという試みが随分進んできている。

もう一つは、高専は、地域の中で学生の評価というか、評判が結構高い。単純に技術だけ優れているというだけじゃなくて、人間というのもしっかり教育されてきているなということも結構耳にする。ますますそれを大きくするためにどん

ん広げていただきたい。もう一つ、学校、高専って、地域の高専、いろいろな活動だとか研究成果もいっぱいあると思うが、地域に情報公開をもっとたくさん、多くしていくことが非常に、地域にとっても助かることであるし、高専の将来にとっても大事なことと思うので、その辺をぜひお考えいただければと思う。

水本参与：学科改組については、従前より非常に幅広い教育が網羅されており、非常に期待したいと思っている。

それから、スクールバスについて、選択肢を多くするということは良いが、やはり寮は寮のよさというのもあるので、そこら辺の予算をあまりなくさないような形で運営いただければと思っている。

小河原参与：学科改組、非常に大きな節目になろうかと思う。そんな中で、コロナも含め、教職員の皆様にはお体にも気をつけて御尽力をいただきたいと思う。

倉沢参与：よりよい高専になるよう、後援会としても頑張っていく。スクールバス、学科改組など今後が非常に楽しみである。

柳見沢参与：高専とは今後も地域のつながりを連携して進めたいと思う。

天野会長：長野高専は、多分全国の数ある高専の中でも非常に意欲的な取組をたくさんされていると常々思っている。そんな中で同じ工学系ということで連携協定を結ばせていただいているので、特に教育的部分、特にこの間はDXとかIT関係に関しては引き続き連携強化していきたいと思っている。我々もなるべく地元就職ができるような取組というのをいろいろ考えている。

7. 閉会

土居校長：改組という大きな変化は初めてで、我々もどうなるか分からないところであるが、また引き続き、よく見守りをしていただき、よりよい改組にしていきたい。

それと、もう一つは、今日参与の皆様からお話を伺っていて、本当に長野高専は地域の皆様に愛されているなど感じた。地域あつての長野高専なので、いろいろな教育現場、また地域の皆様、また地域の企業の皆様等々の関係を今まで以上に大切に、その全てを教育、学生の育成というものにつなげ、そして長野県、地域に50%の就職を目標に、また、残りの50%は大いに東京などに出て日本を引っ張ってもらいたいという（人材を輩出する）教育機関にしたいと思っている。

以上

付録 6 令和 3 年度教育改善委員会議事概要

令和 3 年度 第 1 回教育改善委員会
議事概要

日 時 令和 3 年 5 月 26 日 (水) 16:15～17:15

場 所 第 2 会議室

出席者 (敬称略) :

楡井 雅巳	鈴木 伸哉	長坂 明彦	秋山 正弘
浅野 憲哉	久保田和男	小宮山真美子	富岡 裕

議 題

1. 2021 年度教育改善委員会の活動内容 (案) 資料 No. 1-1～1-2
委員長から本委員会の活動の概要説明, 併せて今年度の活動内容について説明があった。
また, 本年度業務分担案について説明し, 協議の結果承認された。
2. 各種点検・改善システムについて 資料 No. 2-1～2-2
委員長から, 昨年度整理し本委員会で提案した点検・改善システムの案の現状について説明があった。
この案を用いて今年度の点検・改善を行きたいと提案し, 了承された。なお, 一部オーソライズできていないシステムもあるので調整しながら実施したいと発言があった。
3. エビデンス収集について 資料 No. 3-1～3-5
長坂委員より収集案について説明があった。
提出締切について 10 月 27 日であるが前期中間試験が 8 月であり期間が開きすぎるので, 例えば試験終了後何日後と決めてしまっはどうかと意見があり, 詳細は委員長と長坂委員で調整することとした。
P22 のファイル名入力の例中, 教員名が抜けているという意見があり, わかりやすく修正することとした。
4. 2020 年度報告書への対応について 資料 No. 4-1
委員長よりこの報告書は, 現在前委員により編集中であり, 各委員会からの報告を含め

た上で執行会議での承認を受けることになると説明があった。

次回開催予定 7月28日（水） 16:15～ 第1会議室

令和3年度 第2回教育改善委員会
議事概要

日 時 令和3年7月28日(水) 16:15～17:30
場 所 第2,3セミナー室

出席者 楡井 雅巳 鈴木 伸哉 長坂 明彦 久保田 和男
小宮山 真美子 秋山 正弘 浅野 憲哉
欠席者 学生課長

議 題

1. 2020年度教育改善報告書について 資料1(別冊)
次回執行会議へ付議する報告書案について協議した。委員長から令和3年度の活動に向けた各種委員会等への提言については、提言を踏まえて活動を促していくと発言があった。原案を承認し、執行会議へ付議することになった。
2. 2020年度年度計画への評価・提言について 資料2
過日委員へメールで照会済の年度計画の実績報告への評価にかかる委員長作成の原案について協議した。
実績に対する自己評価については、実績報告作成時に作成者が実施できるのではないかという意見があった。
協議の結果、原案を承認した。
3. 新任教員のチュータ制の検討について 資料3
委員長よりチュータ制を導入する案について提案があった。各委員の意見聴取の結果、新規採用教員への教育については、学科ごとに温度差が大きいことがわかった。また、個人ごとに研究業績を積み上げる必要があり、校務分掌だけでなく研究チュータ的な役割も必要であるという意見があった。総務主事とも協議しつつ検討を続けることとした。
4. エビデンス収集について 資料4(既提示の資料：エビデンス収集について)
長坂委員より7月30日頃にアナウンス開始、締切や収集方法等、資料に基づき説明があった。
エビデンスについてはストックするだけでなく、教育改善に結びつくようなフィードバックが必要である、エビデンスを集める理由を明確にするべきであるという意見があっ

た。

委員長から委員各自でシステム全体を把握し、改善に向けて工夫するなど考えてほしいと指示があった。

5. 各委員会の年度重点項目について

資料5

委員長より今年度の各委員会からの計画について説明があり、確認した。

6. FD 計画について

長坂委員より8月26日14:00開催のFD研修会について別紙資料に基づき説明があった。

また、委員長より以下のFD研修会を予定している旨口頭で説明があった。

講師：田川昌彦先生（信濃教育会から推薦）

期日：9月以降を調整中

テーマ：学生指導、学級経営力向上について（仮題）

なお、教務委員会が教育力向上のFD研修を8月9月で開催する予定の情報があり、共同で開催はどうかという意見があった。

7. 教育の実施状況の確認について（JABEE 受審に向けて）

委員長から以下の点について危惧されると発言があった。

○シラバス記載どおりの成績評価が行われているかの把握

エビデンス収集によるチェックのみ行なわれている。

○学修単位の学習時間の把握

現在本校では実施していない。

JABEE 受審に向けて教育改善システムを見なおし、夏休み中か少なくとも年内に何らかのシステムの修正を行ない、次年度のシラバス作成に間に合わせる必要がある。

今後実施される JABEE 研修会については是非出席してほしいと委員へ指示があった。

なお、システムについては他高専の状況を照会してはどうかという意見があった。

次回開催予定 9月30日（木）16:15～第1会議室

令和3年度 第3回教育改善委員会
議事概要

日 時 令和3年9月30日(木) 16:15～17:00

場 所 第1セミナー室

出席者 楡井 雅巳 鈴木 伸哉 久保田和男 小宮山真美子
 秋山 正弘 浅野 憲哉
欠席者 長坂委員 学生課長

議 題

議事

1. 令和3年度前期期末達成度評価レベル確認について 資料1
 - ・レベル保障確認の方法を説明，資料のとおり了承された。
 - ・確認欄は印またはサインとすることとした。
2. 令和2年度授業改善システムチェック報告書について
 - ・報告書作成方法等について意見交換を実施した。また，事情により報告書の提出締切を10月15日に延期したことを報告した。
 - ・昨年度作成したエビデンスチェックシートをGWに掲載し，参照できるようにした。
3. 新任教員のチュータ制の検討について 資料2
 - ・教員の教育力を向上させる研修を学科にとらわれることなく行なうためのチュータ制導入を提案した。
 - ・原案を承認し，執行会議へ付議することとした。
4. 卒研等研究エビデンス収集について 資料3
 - ・エビデンス保管についての取扱基準を提案した。
 - ・原案を承認した。以降具体的な文書を作成し，学科へ通知することとした。
5. 成績評価履歴のチェック項目について 資料4
 - ・シラバス記載どおりの成績評価が行われているかを把握するため，成績評価履歴の表紙に自己点検チェック欄を設ける改善を行ない，後期からこの様式を使用することを提案した。
 - ・原案を承認した。

6. 教育の実施状況の確認について（JABEE 受審に向けて）

- ・学修単位の学習時間を把握し、学生に自学自習する時間を担保していると説明できるエビデンスを残すためにどのようなシステムを構築すればよいか、各委員へアイデアを募った。
- ・継続審議とした。

報告事項

1. FD 計画について

- ・田川先生（信濃教育会から推薦）による講演，11月17日開催で調整中
「学生指導，学級経営力向上について（仮題）」

2. 第1回及び第2回 FD 研修会報告

資料5

- ・アンケートを取っているが，後の利用がないのではないかという意見有。

3. JABEE 受審に対する準備状況について

- ・総務主事，春日，鈴木(伸)，轟，楡井各教員で対応，準備をスタートした。
- ・それぞれが旗振り役となり，第三者，教育改善等のメンバーに協力を依頼する予定である。

4. 2021年度 エビデンス収集について（後期案）

資料6

- ・資料中の「エビデンス提出期限」の前期の期限は削除することになった。

次回開催予定 11月24日（水）16:15～第2会議室

令和3年度 第4回教育改善委員会
議事概要

日 時 令和3年11月24日(水) 16:15~16:55

場 所 第2会議室

出席者 楡井 雅巳 鈴木 伸哉 長坂 明彦 久保田和男

小宮山真美子 秋山 正弘 浅野 憲哉 鈴木 宏

欠席者 学生課長

議 題

1. 2020年エビデンスチェックについて

資料1

(GW提出済2020年エビデンスチェックシート)

- ・チェックシート中、エビデンスの無い部分について、委員から当該教員へフォローしてほしいと依頼があった。
- ・エビデンス提出場所については、GWへ2020年度未提出分の提出先フォルダを委員長が作成する。

2. 試験エビデンスのチェック項目追加について

- ・昨年と比して50%以上類似した問題になっていないかのチェックが必要である。
また、JABEE科目だけでなく全科目のチェックが必要である。
- ・委員長から提案→エビデンス提出の際に表紙に自己チェック用の欄を作成する。
- ・委員会では学科ごと数科目のチェックを行うこととした。
- ・今年度後期のエビデンスから「50%以上類似した問題ではない」というチェック欄を作成する。→長坂委員が表紙を作成する。
- ・現在問題作成時期のため早急に作成、通知を行う必要がある。

3. 教育の実施状況の確認について (JABEE受審に向けて継続審議)

- ・学校として学修単位の学習時間の把握を行っていることを説明する必要がある。
- ・年度内にエビデンスをまとめる必要有。
- ・教員毎に自己申告してもらえないのでは?という意見有。
- ・各教員へ自学自習時間をどのように確保しているかの報告を求めることになった。
委員長が原案を作成、教員へ依頼する。
- ・これは教育改善システムに組み込む必要がある事項である。

報 告

1. 第2回 FD 研修会報告

資料2

2. 第3回 FD 計画について

○ 日 時 12月17日(金) 15:00～16:30

場 所 100番教室(状況により遠隔あり)

演 題 「学生指導, 学級経営力向上について(仮題)」

講 師 長野上水内教育会事務局長(元長野市内公立学校校長)

田 川 昌 彦 氏

3. 学生満足度調査について

- ・鈴木総務主事から来年2月に全学生へ実施してほしい旨依頼があった。
- ・昨年度芦田教員が作成したフォームがあるのでそれを利用できる。

次回開催予定 1月21日(金) 16:15～第1会議室

令和3年度 第5回教育改善委員会

議事概要

日 時 令和4年1月21日（金） 16:15～16:55

場 所 第2会議室

出席者 楡井 雅巳 鈴木 伸哉 長坂 明彦 久保田和男
 小宮山真美子 秋山 正弘 浅野 憲哉

欠席者 鈴木 宏 学生課長

議 題

1. 試験エビデンスのチェックについて

- ・今回の書類の内、試験のエビデンスの表紙、成績書類の表紙が変更されているので、提出時に注意するよう学科で確認してほしいと委員長から各委員へ依頼があった。
- ・試験のエビデンスの作成には試験実施内容、評価基準が示されていることが必要である。
- ・リモート授業移行に伴いシラバスの変更が必要だが、校内のルールが必要なので教務委員会へ定めるよう委員長から依頼した。
- ・前期成績の上書きの許可のルールが無いので定めてほしい旨を教務主事へ依頼した。
- ・昨年度エビデンス未提出者への提出依頼について、毎年同じ教員が提出しない場合は、委員長経由で総務主事から催促することになった。
- ・エビデンス収集の日程は当初の計画から変更しない。
- ・フォームズで試験をやる場合でデータが大量の場合でも、従来のルールに沿って実施してほしい。困難がある場合には委員長に相談。

2. 教育改善報告書目次案

(資料 1-1, 1-2)

- ・委員長作成の目次資料中の担当者案について協議し、原案を了承した。
- ・報告書は年度内完成を目指す。そのため各委員会からの重点項目に対する回答は2月末から3月初旬に取り込むようにする。
- ・各自の担当部分の資料を去年の報告書を参考に作成するよう依頼した。

3. 教育の実施状況の確認について（JABEE 受審に向けて継続審議）

○学修単位の学習時間の把握

(現状) 特定のレポートを引き合いに相当の自学自習を主張

- ・委員長作成のフォームで教員宛調査を実施予定。
- ・この手続きを教育改善システムに入れる場所がないという問題がある。教育改善システムのタイムスケジュール表に記載することを予定している。

4. その他

- ・満足度調査を去年同様に実施するので事務的に準備してほしい。
- ・メール目安箱今年度は20件有。

報告事項

1. 第3回FD研修会報告

(資料2)

- ・12月に実施された研修会の報告書を確認した。

次回開催予定 3月25日(金) 16:15～第1会議室

令和3年度 第6回教育改善委員会
議事概要(案)

日 時 令和4年3月25日(金) 16:15~16:50

場 所 第1会議室

出席者 楡井 雅巳 鈴木 伸哉 長坂 明彦 久保田和男
 小宮山真美子 秋山 正弘 浅野 憲哉 鈴木 宏
 学生課長

欠席者 無

議 題

1. 試験エビデンスのチェックについて 【資料1】
 - ・未提出分は令和3年度遅延提出分のフォルダへ提出を依頼することとした。

2. 本年度の活動について
 - ・P24赤字部分が次年度への課題となる。
 - ・本科の意見交換会は今年度実施せず、来年度対面で実施したいという意向有。
 - ・意見交換会専攻科分は未報告のため専攻科長へ提出を依頼する。
 - ・学生の満足度調査結果についても報告書へ加えることになった。
 - ・本委員会WGは今年度で解散となり今までの業務は委員会で行うことになる。
 - ・委員会活動について意見等を寄せてほしいと委員へ依頼があった。

3. 教育改善報告書作業状況
 - ・報告書が集まり次第、次年度への提言をまとめ、4月頭初には報告書が仕上がる予定。

4. 学修単位の学習時間への対応の調査状況
 - ・事務で月曜までにCSVファイルを委員長へ提出することになった。
 - ・そのデータを取りまとめ、別途グラフ化を行う。

5. 試験同一性チェック状況について
 - ・C科は未提出のため当該委員へ提出を依頼した。
 - ・今年度×がついたもの(一般科、J科)については改善するよう依頼する。
 - ・この×がついたものは来年度以降チェック必須科目とすることとした。

6. その他

- ・試験問題レベル確認等について、エビデンス収集のようなスケジュールを決めたほうがよいという意見が有、来年度に向けて検討することとした。

報告事項

1. 第4回FD研修会が以下のとおり実施された。

- ・3月25日（金）14:30～16:00 於第2, 3ゼミ室

演題 「長野高専の産学連携」

講師 本校リサーチアドミニストレータ 浅沼 和志 氏

2. 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検 【資料5】

- ・この調査をどう評価するかが不明確であるという意見有

3. 第18回長野工業高等専門学校参与会概要 【資料6】

- ・普段学校を見ていない参与の皆さんから多くの意見を得るために、適切な資料を提示し詳細な説明が必要ではないかという意見有。

4. メール目安箱 投稿数：21件

- ・学生：17、保護者：2、その他：2、以上の投稿があった。
- ・投稿が出てきた場合は、関係教員へ対応を依頼し、適切に処理した。

以上